

# 都立高校の 魅力向上等に係る懇談会 (第1回)

令和7年11月6日

## 1 高校の課程と学科

## 2 都立高校の種類

## 3 これまでの都立高校改革 推進計画等

- 都立高校改革推進計画（第Ⅰ期、第Ⅱ期）
- 都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム
- 都立高校におけるチャレンジサポートプラン

## 4 応募倍率の推移

## 5 高校進学に関する現状

## 6 都立高校に関する アンケート結果

- 都内中学校3年生
- 都内中学校3年生保護者
- 都立高校1年生

## 7 都立高校を取り巻く状況

## 8 都立高校の現状

# 1 高校の課程と学科

# 高校の課程と学科

## 高校の課程

高等学校には全日制、定時制、通信制の課程を置くことができる。(学校教育法第53条及び第54条)

- 全日制課程 : 通常の時間帯において授業を行う課程
- 定時制課程 : 夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程
- 通信制課程 : 通信による教育を行う課程

## 高校の主な学科

一定の教育目標を達成するために、各教科・科目を一つのまとまった教育内容を持つよう系統化を図ったもの。教育課程を編成する上で、また生徒が履修する上でのまとまりとなるもの。

高等学校の学科は大きく次の3つに区分される。(学校教育法第52条、高等学校設置基準第5条及び第6条)

- 普通科 : 普通教育を主とする学科
- 専門学科 : 専門教育を主とする学科
  - ※ 農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、情報科、福祉科、理数科、体育科、音楽科、美術科、国際学科、その他専門教育を施す学科
- 総合学科 : 普通教育及び専門教育を選択履修を旨として総合的に施す学科

## 2

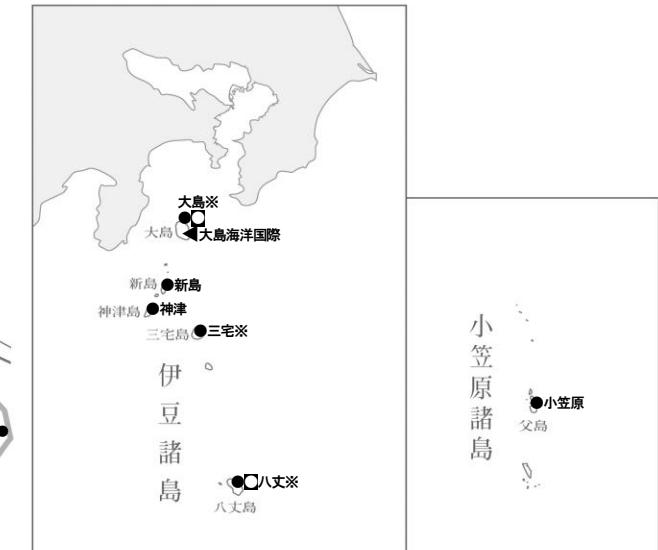
# 都立高校の種類

# 都立高校の種類

## 都立高校（187校）（実学校数）

都立高校は、全日制172校、定時制54校、通信制3校を設置

- ※ 令和7年5月1日現在。中等教育学校(後期課程)5校は含まない。  
1校に複数の学科を設置(併置)している学校は1校として計上(以下同)
- ※ 図には、令和8年度入学者選抜で募集を行う予定の学校を掲載。図中に  
「※」を付している学校には、凡例による学科以外の学科等を併置



- 【凡例（記号一覧）】
- 普通科
- 普通科（単位制）
- 農業科
- ▲ 工業科
- ▶ 工業科（科学技術科）
- ◆ 商業科（ビジネス科）
- ❖ 商業科（ビジネスコミュニケーション科）
- 産業科
- ◀ 水産科
- ★ 家庭科
- 國際科
- ★ 芸術科
- ◎ 総合学科
- ▼ 高等専門学校
- 夜間定時制
- 夜間定時制
- ◎ 夜間定時制（チャレンジスクール）
- 通信制

## 凡 例



都県界  
特別区・市・町・村界  
JR 線  
その他鉄道

# 都立高校の種類（全日制）

## 普通科（124校※）

### 特色ある教育を行う普通科高校

#### ○ 進学指導重点校（7校）

難関国立大学や国公立大学医学部医学科への進学を目指す学校

日比谷高校、西高校、国立高校、八王子東高校、戸山高校、青山高校、立川高校

#### ○ 進学指導特別推進校（7校）※ 国際高校含む。

国公立大学や難関私立大学等への進学を目指す学校

小山台高校、駒場高校、新宿高校、町田高校、国分寺高校、国際高校、小松川高校

#### ○ 進学指導推進校（15校）※ 多摩科学技術高校含む。

優れた教育活動を実践するとともに、生徒の着実な学力の伸長を図り、進学実績の向上を目指す学校

三田高校、豊多摩高校、竹早高校、北園高校、墨田川高校、城東高校、武蔵野北高校、小金井北高校、

江北高校、江戸川高校、日野台高校、調布北高校、多摩科学技術高校、上野高校、昭和高校

# 都立高校の種類（全日制）

## ○ スキルアップ推進校（20校）

民間事業者の多様な講座等の実施により、実社会や進学先等で役立つ実践的なスキルを習得できる学校

大森高校、蒲田高校、深沢高校、板橋有徳高校、田柄高校、光丘高校、青井高校、足立東高校、  
多摩高校、野津田高校、東村山高校、武蔵村山高校、羽村高校、秋留台高校、五日市高校、  
八潮高校、大山高校、忍岡高校、葛西南高校、久留米西高校

## ○ 単位制高校（11校）

学年制とは異なり、必要な単位を修得することで卒業が認められる学校

新宿高校、忍岡高校、墨田川高校、美原高校、芦花高校、飛鳥高校、板橋有徳高校、大泉桜高校、  
翔陽高校、国分寺高校、上水高校

## ○ 普通科（コース制）（4校）

通常の普通科よりも、各学校で重点を置く学習内容（授業）が充実しており、1年次から、外国語コース（3校）、  
造形美術コース（1校）の各コースに分かれて学習

深川高校（外国語）、片倉高校（造形美術）、松が谷高校（外国語）、小平高校（外国語）

# 都立高校の種類（全日制）

## 専門学科（38校）（実学校数）

- ・ 働くために必要な知識や実践的技術を学ぶ学科

○ 農業科	(5校)	○ 家庭科	(4校)
○ 工業科	(16校)	○ 福祉科	(2校)
○ 科学技術科	(2校)	○ 理数科	(2校)
○ ビジネス科	(7校)	○ 体育科	(2校)
○ ビジネス コミュニケーション科	(2校)	○ 芸術科	(1校)
○ 産業科	(2校)	○ 國際科	(1校)
○ 水産科	(1校)	○ 併合科	(3校)

## 総合学科（10校）<全日制・単位制>

- ・ 国語や理科などの普通科目から、情報や美術、国際関係や家政系などの専門科目まで、自分の興味・関心や進路に応じて幅広く学べる学科

# 都立高校の種類（定時制）

## 夜間定時制（41校）（全日制課程と併置する学校を含む）

- ・ 夕方から夜間にかけ、原則4時間授業を実施(1学級30人。4年で卒業※) ※ 昼夜間定時制、チャレンジスクールも同じ
- ・ 近年では、学習習慣や生活習慣等に課題がある生徒や不登校・中途退学を経験した生徒など、多様な生徒が在籍

普通科 (23校)     農業科 (4校)     工業科 (10校)     商業科 (4校)  
 産業科 (1校)     総合学科 (2校)     併合科 (1校)

## 昼夜間定時制（6校※）

※ チャレンジスクール(7校)を除いた校数

- ・ 自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて、I部(午前部)、II部(午後部)又はIII部(夜間部)から選んで入学
- ・ 意欲のある生徒は3年間で卒業できるよう他部の履修も可能
- ・ 基礎・基本を重視し、習熟度別授業や少人数授業など、多様な形態で授業を実施
- ・ 職業に関する専門科目や、デザイン・ビジネス・ファッショ等の特色ある選択科目も設置

普通科 (6校)  
 情報科 (1校)

時間割 の例	部	I部				II部				III部			
		時限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
時間帯	8:50~12:25				13:10~16:45				17:20~21:10				

# 都立高校の種類（チャレンジスクール・エンカレッジスクール・通信制）

## チャレンジスクール（7校）<定時制・総合学科・単位制>

- ・昼夜間定時制の中でも、特に不登校や中途退学等を経験した生徒が自分の目標を見つけ、チャレンジする高校
- ・学力検査や中学校の調査書によらず、生徒の意欲を重視した入学者選抜を実施
- ・カウンセリングや教育相談の充実等、心のケアに配慮したきめ細かい指導

六本木高校、大江戸高校、世田谷泉高校、穂ヶ丘高校、桐ヶ丘高校、小台橋高校、立川緑高校

## エンカレッジスクール（6校）<全日制・学年制>

- ・小・中学校で十分能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、学校生活を充実させる高校
- ・生徒一人一人にきめ細かい指導を行うため、二人担任制を導入
- ・1年次には30分授業を実施し、基礎・基本を徹底

蒲田高校、中野工科高校、練馬工科高校、足立東高校、東村山高校、秋留台高校

## 通信制（3校）

- ・報告課題(レポート)、面接指導(スクリーニング)、単位認定試験等の方法により単位を認定する高校

一橋高校、新宿山吹高校、砂川高校

### **3 これまでの都立高校改革推進計画等**

# 都立高校改革推進計画の策定

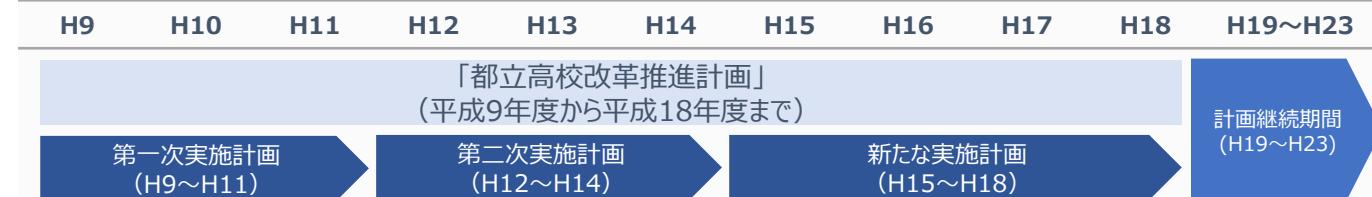
- 昭和61年度をピークに、都内公立中学校3年生の生徒数が減少傾向
- 生徒数減少に伴い学校規模と配置の適正化を図るため、平成9年度から取組を開始
- 都民ニーズや生徒の多様化、都立高校を取り巻く状況の変化等に対応するため、過去2度に渡り高校改革推進計画を策定・実施。また、新たな課題等の解決とともに、都立高校の魅力向上を図ることを目的として、「都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム」を策定

## 都内公立中学3年生生徒数 推移

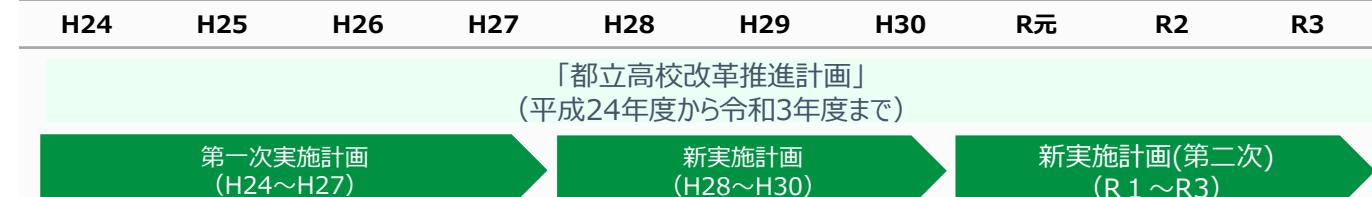


## 都立高校改革推進計画

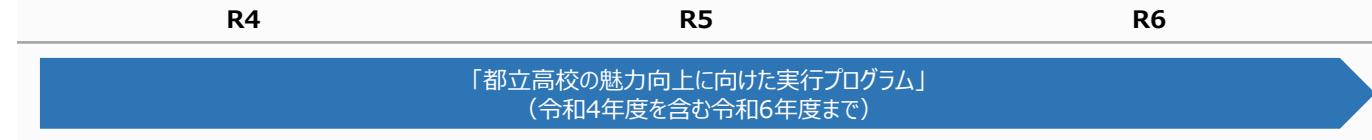
### <第Ⅰ期>



### <第Ⅱ期>



## 都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム



# 都立高校改革推進計画（第Ⅰ期）

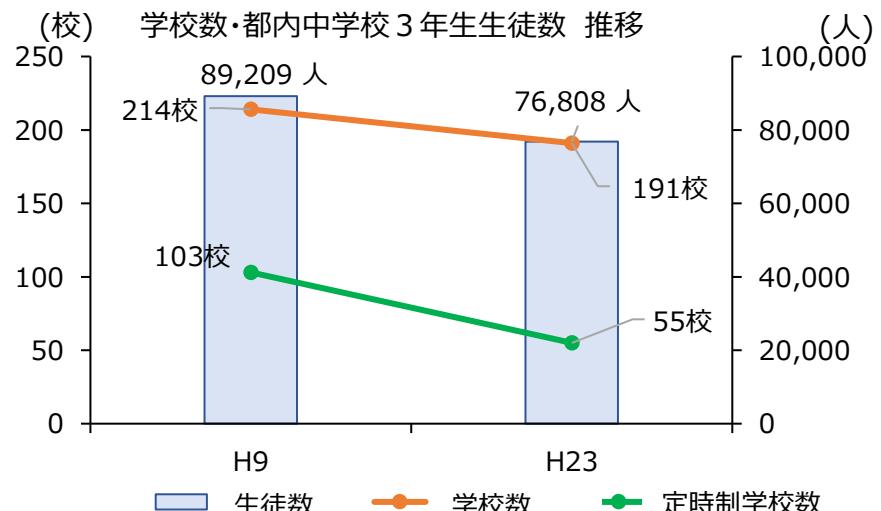
〔計画期間：平成9年度から平成18年度まで〕  
〔計画継続期間：平成19年度から平成23年度まで〕

## 計画の目的

急激な生徒数の減少や生徒の多様化に対応するため、都立高校の適正な規模と配置を進めつつ、学校の個性化・特色化を推進

## 主な改革内容

- ① 中学校卒業生徒数の減少に合わせた都立高校の規模と配置の適正化
- ② 生徒の多様な希望に応える学校づくり  
→ 総合学科やチャレンジスクール等の設置、進学指導重点校・エンカレッジスクールの指定など
- ③ 学校マネジメントの強化・改善  
→ 学校経営計画の策定、自律経営推進予算(校長のリーダーシップを発揮できる予算)の創設など



## 主な学科改編・指定校

中高一貫教育校(10校)、総合学科(9校)、科学技術高校(2校)、  
ビジネスコミュニケーション科(2校)、産業科(2校)、  
チャレンジスクール(5校)、新たなタイプの昼夜間定時制(4校)  
進学指導重点校(7校)、エンカレッジスクール(5校)など

# 都立高校改革推進計画（第Ⅱ期）

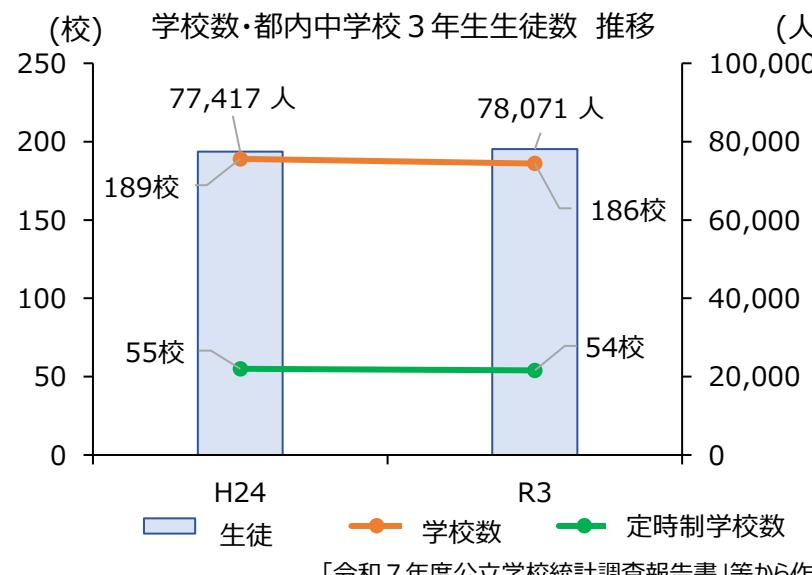
〔計画期間：平成24年度から令和3年度まで〕

## 計画の目的

生徒の能力を着実に伸ばし、社会の要請に応じて、真に社会人として自立した人間を育成

## 主な改革内容

- ① 次代を担う社会的に自立した人間の育成  
→ 学力スタンダードの策定、理数教育の推進、次世代リーダー育成道場など
- ② 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進  
→ 国際バカロレア教育の実施、専門学科の改善・充実、チャレンジスクールの新設など
- ③ 質の高い教育を支えるための環境整備  
→ カリキュラム・マネジメントの実施、教員の働き方改革、自立支援チームの派遣など



## 主な学科改編・指定校

国際高校 国際バカロレアコース(H27)、赤羽北桜高校の開校(R3)、  
立川高校創造理数科の設置(R4)、小台橋高校の開校(R4)、  
立川国際中等教育学校附属小学校の開校(R4)、  
立川緑高校の開校(R7) など

# 都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム

## 経緯

- 都立高校改革推進計画(H24～R3)期間終了後、都立高校を取り巻く環境が変化する中、新たな課題等の解決とともに、都立高校の魅力向上を図るための施策をプログラムとして体系化
- 令和4年度から令和6年度までのプログラムとして、令和5年3月に策定  
令和6年3月に、新たな取組等を追加した更新版を策定

## プログラムの性格等

- 都立高校の魅力向上に向け、新たな課題等に対応するための当面のプログラム
  - ・ 3つの施策の方向性に基づき集中的に施策を展開
  - ・ 取組内容について毎年度ブラッシュアップするなど、状況の変化等に応じて柔軟に対応

## 3つの施策の方向性

### I 自ら未来を切り拓く力の育成

→ TOKYOスマート・スクール・プロジェクトの推進、グローバル人材の育成に向けた使える英語力の強化など

### II 生徒目線に立った支援の充実

→ 不登校生徒・中途退学者に対する支援、日本語指導が必要な生徒に対する支援など

### III 質の高い教育を実現するための環境整備

→ 学校の魅力発信、定時制課程の改善・充実、働き方改革の推進など



# 都立高校におけるチャレンジサポートプラン

## 目的

- 困難を抱える生徒に対する支援の取組を総合的に進め、都立高校における多様な生徒たちの学びや成長を支える学習・教育環境の充実を図ることを目的に令和6年10月に策定
- 計画期間は3か年(R7～R9)

## 3つの観点・取組例

### ① 生徒が相談できる体制の充実

- ・ 多様な困難を抱える生徒について、生徒が一人で抱え込むことがなく、また周囲も気付けるよう、ユースソーシャルワーカー等の派遣やスクールカウンセラーの配置を充実
- ・ デジタル技術の活用や教室以外でも相談等ができる居場所の提供により、学びの機会や相談体制を充実

### ② 生徒の事情や悩みに応じた適切な支援

- ・ 不登校経験のある生徒等に対応した、学び直しの科目設置や、人間関係づくりプログラムを実施
- ・ 日本語のレベルが入門・初期段階の新入生を対象に、高校の学習につながる日本語講座を春期に集中実施
- ・ 発達障害等による困難がある生徒に対し、民間企業等と連携した就労スキルの学習やインターンシップ等を実施

### ③ 多様な生徒の受入環境の充実

- ・ チャレンジスクールの拡充等を行うほか、柔軟な登校時間の選択等が可能で、不登校経験等がある生徒にも配慮した入学者選抜を行う「新たな受入環境充実校」として、深沢高校を改編(令和8年4月)

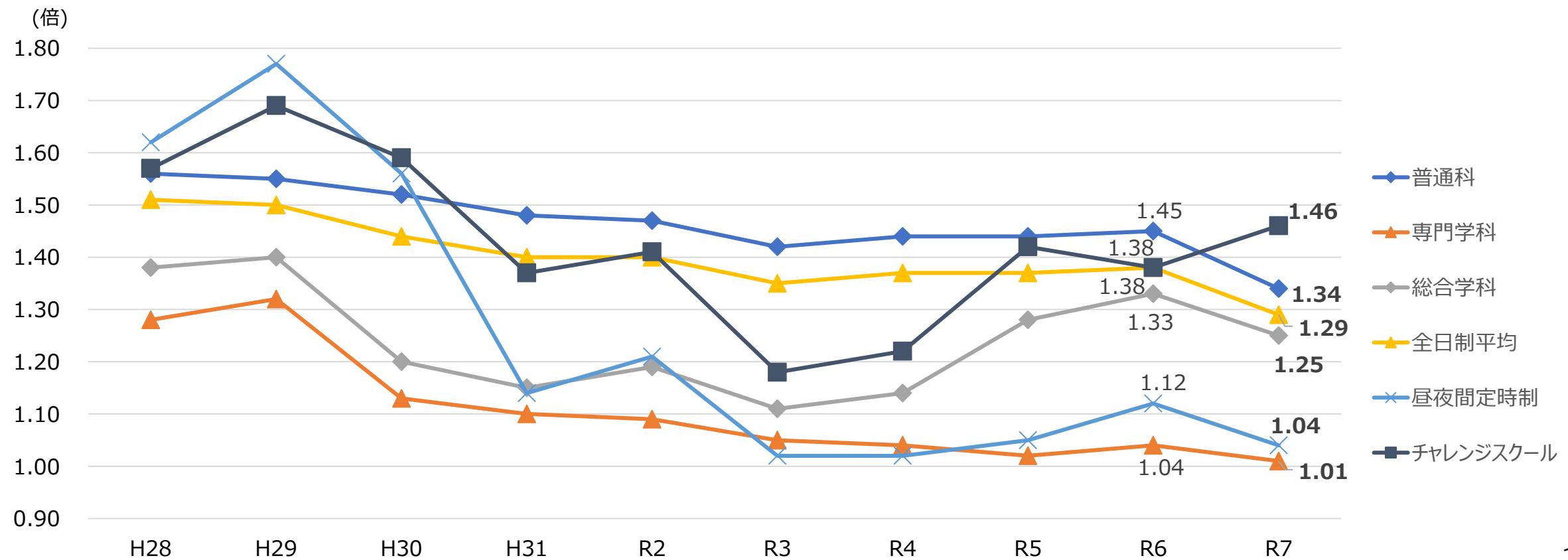
## 4

# 応募倍率の推移

# 応募倍率の推移

- R7入学者選抜において、都立高校の応募倍率が全体的に低下(全日制平均:1.38倍→1.29倍)
- 一方、チャレンジスクールについては応募倍率が上昇(チャレンジスクール:1.38倍→1.46倍)
- ⇒ 高校進学に係るニーズを把握するため、「アンケート調査」を実施

## 応募倍率（第一次・分割前期募集）

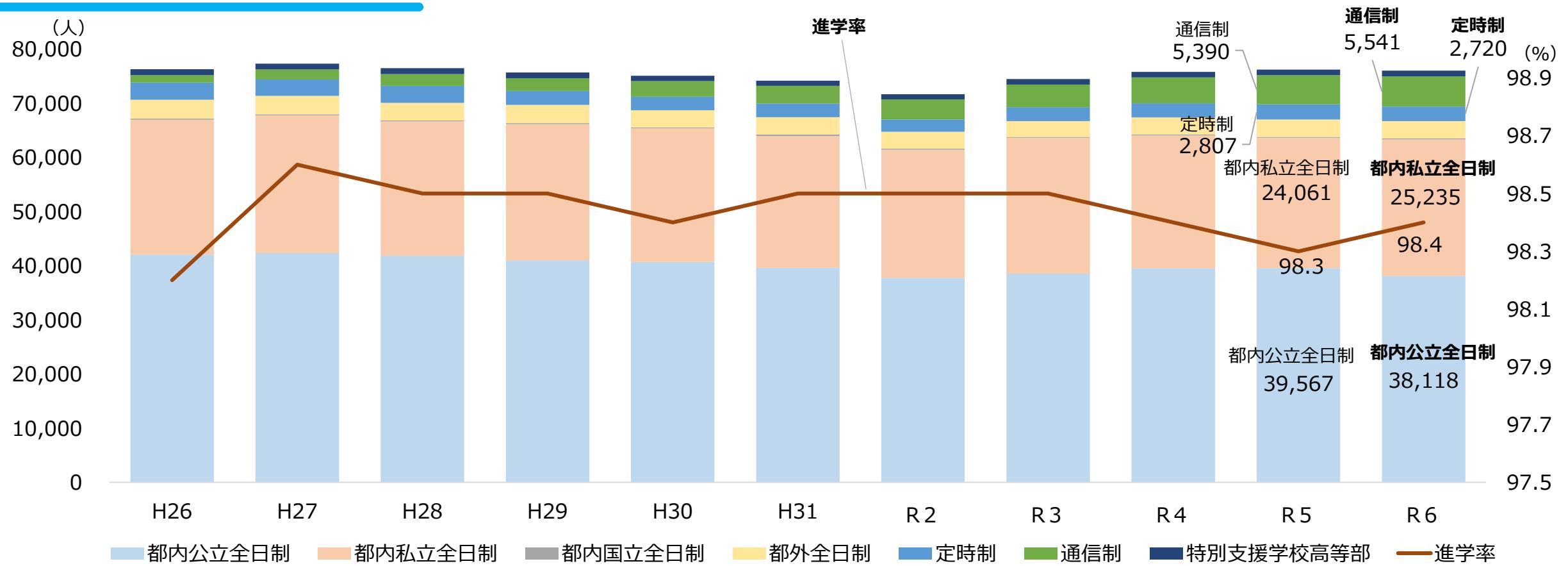


## 5 高校進学に関する現状

# 都内公立中学校等卒業生の進路状況

- 令和7年3月に卒業した生徒数77,884人に対し、進学者は76,662人。高等学校等への進学率は98.4%
- 令和5年度と令和6年度を比較すると、「都内私立全日制」が約1,200人増加している一方で、「都内公立全日制」は約1,400人減少

## 都内公立中学校等卒業者進路状況



# 就学計画

- 進学を希望する生徒を、公教育の両輪である都立高校と私立高校で受け入れていくため、私立との間に公私連絡協議会を設置し、協議
- 学ぶ意欲と熱意のある生徒を一人でも多く高等学校に受け入れていくため、公立・私立が、都内公立中学校卒業生をそれぞれ何人受け入れるかの計画(就学計画)を策定
- 安定的かつ継続的な就学計画とするため、5年ごとに中期計画を策定し、中期計画を基に毎年度の就学計画を策定

## 第六次中期計画（令和6年9月合意）

- |          |   |
|----------|---|
| ① 計画期間   | <b>5年間</b> (令和7年度～令和11年度)                                 |
| ② 計画進学率  | <b>93.0%</b><br>(就学計画を立てる上で、公立中学校卒業予定者のうち、全日制等に進学する生徒の割合) |
| ③ 公私分担比率 | 都立 <b>59.6</b> :私立 <b>40.4</b>                            |
| ④ その他    | 不登校生徒や日本語指導が必要な生徒等の増加に対する就学機会の確保について、公私それぞれの立場で対応         |

## 6 都立高校に関するアンケート結果

# アンケート結果（回答状況）

- 令和7年7月中旬から9月上旬にかけて、都内公立中学校3年生、都内公立中学校3年生保護者、都立高校1年生に対し、インターネットを用いたWEBアンケートを実施
- 主な調査項目としては、高校を志望する際に重視する点や、都立高校の改善を要する点等、都立高校の魅力向上に資する項目について幅広く意見を収集

調査対象	調査期間	調査方法	回答者数	主な調査項目
都内公立中学校 3 年生			10,656人	・高校を志望する際に重視する点 ・高校の志望理由 ・どのような都立高校があつたらいいと思うか 等
都内公立中学校 3 年生 保 護 者	7月中旬 ～9月上旬	WEB アンケート	5,796人	・都立高校の改善を要する点 ・どのような都立高校があれば子供を通わせたいと思うか 等
都 立 高 校 1 年 生			15,831人	・都立高校をよりよくしていくために改善すべきことはなにか 等

# アンケート結果（都内中学校3年生）

- 全日制高校を志望する際に重視する点
  - ・ 都立高校・私立高校の志願者ともに、**学習指導や学校行事への期待が高い。**
  - ・ 都立高校の志願者は、**自分の学力や自宅に近いことも重視**
  - ・ 私立高校志願者は、**施設・設備面や部活動、大学の附属高校であることも重視**
- 定時制・通信制を進学先として考えている理由
  - ・ 夜間定時制では、**働きながら通学できることを重視**、昼夜間定時制では、**自分のペースで勉強できることを重視**
  - ・ 通信制では、**自分のペースで勉強できること、自分のやりたいことと学業の両立**を重視

【全日制】高校を志望する際に重視する点		【定時制・通信制】進学先として考えている理由		
都立高校(全日制)	私立高校(全日制)	夜間定時制	昼夜間定時制	通信制
学習指導の充実 45.7%	施設・設備の充実 49.3%	働きながら通学できる 42.9%	自分のペースで勉強できる 60.2%	自分のペースで勉強できる 68.9%
学校行事などの充実 40.5%	学習指導の充実 43.2%	全日制の勉強についていけるか不安がある 28.6%	働きながら通学できる 33.0%	自分のやりたいことと学業が両立できる 52.9%
自分の学力に合っている 36.1%	部活動が盛ん 38.6%	自宅から近い 28.6%	選択科目が充実 32.0%	働きながら通学できる 26.1%
自宅から近い 32.1%	学校行事などの充実 35.2%	全日制の勉強についていけるか不安がある 32.0%		
男女共学 32.0%	大学の附属高校 33.4%			

# アンケート結果（都内中学校3年生）

- 自由意見では、学びたい分野や部活動・学校行事、進路、施設・設備に関する意見が多数
- 学びたい分野では、プログラミングや動画編集など、デジタル技術分野に対するニーズが高い。
- 部活動が活発な学校、体育祭や文化祭などの学校行事が充実した学校、大学進学や専門的な資格取得ができる学校に対する声も多数

## どのような都立高校があつたらいいと思うか（自由意見）

### 学びたい分野（○○が学べる学校）

- ・ プログラミング・IT・AI
- ・ アニメ、漫画、イラスト
- ・ ゲーム制作、eスポーツ
- ・ 音楽、楽器、作曲
- ・ 美容・ファッショ
- ・ 医療・看護
- ・ 鉄道

等

### 部活動、学校行事等

- ・ 部活動が活発な学校（全国大会や関東大会に出場できる部活がある学校）
- ・ 体育祭、文化祭が活発な学校
- ・ 勉強だけでなく、文武両道ができる学校

等

### 進路等

- ・ 大学進学のサポートが充実した学校
- ・ 専門的な資格取得ができる学校

等

### 施設・設備の充実した学校

- ・ 食堂や売店のある学校
- ・ 衛生設備（トイレ等）が整っている学校
- ・ 校舎が綺麗な学校

等

### その他

- ・ 生徒の個性を尊重する学校
- ・ 服装が自由な学校

等 24

# アンケート結果（都内中学校3年生 保護者）

- 改善を要する点として、施設・設備の充実や進学を目指した学習、社会の変化に対応できる能力を身に付けさせることが求められている。
- 自由意見では、教育内容・進路支援や学校生活、環境・設備に関する意見が多数

## 都立高校に不足している点のうち、改善を要する点

施設・設備を充実させること <b>55.6%</b>	大学への進学を目指した 学習を充実させること <b>28.5%</b>	国際化や情報化など社会の変化に 対応できる能力を身に付けさせること <b>24.3%</b>
-------------------------------	---	--

## どのような都立高校があれば子供を通わせたいと思うか（自由意見）

### 教育内容・進路支援に関する意見

- ・国際化、情報化など社会の変化に対応できる力を学べる環境を整備してほしい。
- ・進学塾に通わなくても大学進学が可能となるよう、大学進学に向けたサポートの強化が必要 等

### 学校生活に関する意見

- ・大学への進学実績が豊富で、部活動も活発な文武両道が実現できる環境が望ましい。
- ・不登校や発達障害の子にも配慮した制度やサポートを充実させてほしい。 等

### 環境・設備に関する意見

- ・老朽化している施設・設備(トイレ等)の改修をしてほしい。
- ・昼食を持参しなくてもいいように、学食や食堂を設置してほしい。 等

# アンケート結果（都立高校1年生）

- 自由意見では、学校生活・校風に関する意見として、学校外との交流やデジタル化、学校行事の充実等を求める声が多数
- また、環境・設備に関する意見として、校舎の老朽化対策や衛生面の改善、学食等の設置に関する意見が多数

## 都立高校をよりよくしていくために改善すべきことはなにか（自由意見）

### 学校生活・校風に関する意見

- ・ 地域との交流や異文化交流など、学校外との交流の機会を増やしてほしい。
- ・ 提出物のデジタル化、教科書のデジタル化を推進してほしい。
- ・ 文化祭や体育祭などの学校行事を充実させてほしい。
- ・ 進路指導を充実させてほしい。等

### 環境・設備に関する意見

- ・ 校舎の老朽化が進んでいるため、建て替えや改修を行ってほしい。
- ・ トイレの改修やごみ箱の設置など、衛生面を改善してほしい。
- ・ 学食や食品自動販売機の設置をしてほしい。等

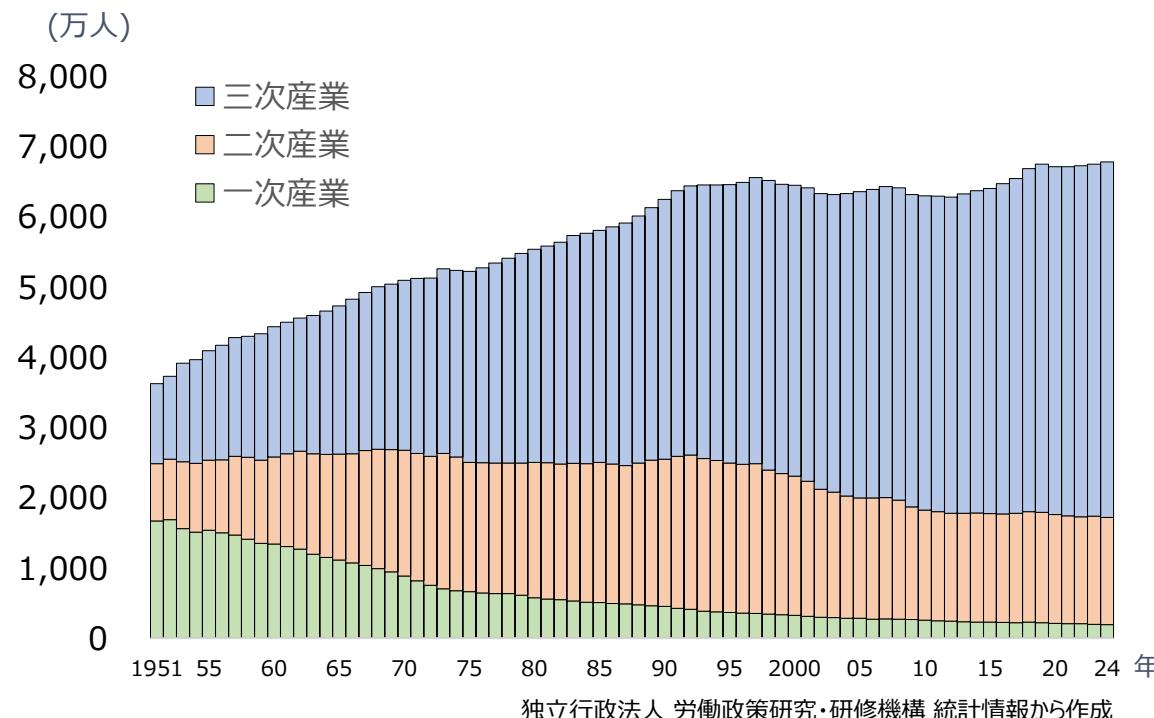
## 7

# 都立高校を取り巻く状況

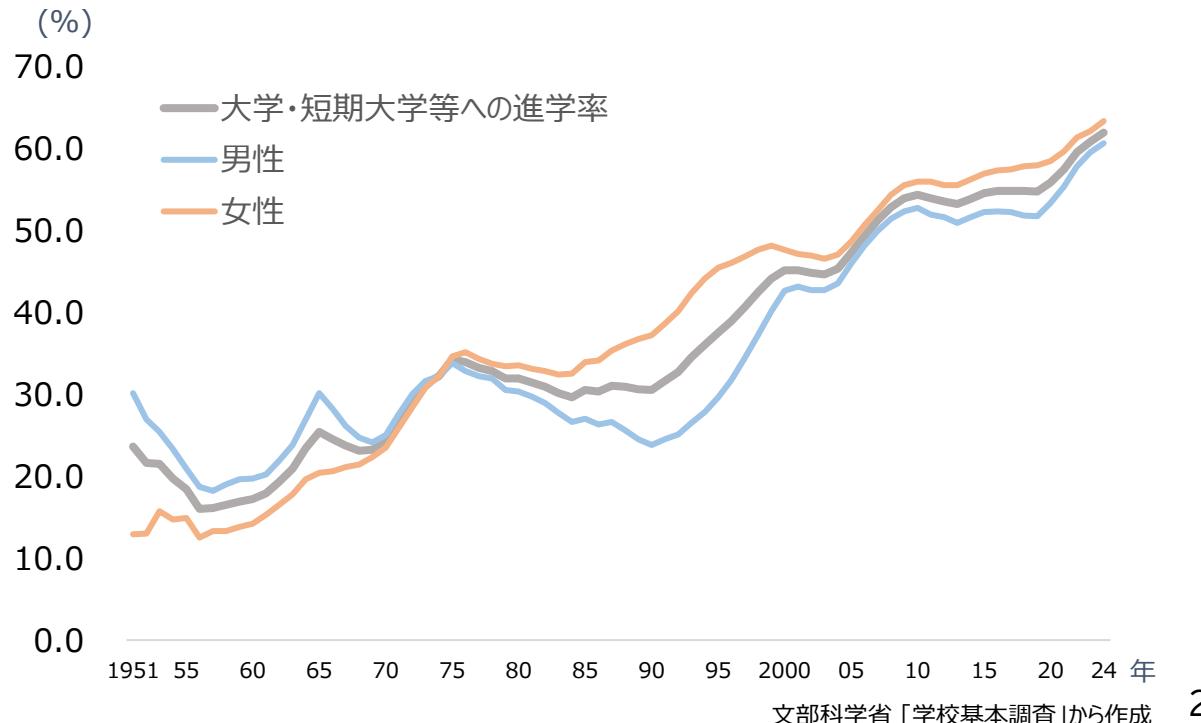
# 変化する社会構造（産業構造や大学等進学率の変化）

- 日本においては、第三次産業(サービス業など)が経済の約7割以上を占める、という構造に変化  
第一次産業就業者数は、1950年代に最も多かったが、2024年には192万人にまで減少  
第二次産業就業者数は、1980年代に約2,000万人まで増加したが、2024年には1,525万人にまで減少  
第三次産業就業者数は、就業者数・構成比ともに安定的に増加し、2024年には5,064万人に増加
- 男女ともに進学率は上昇傾向。とりわけ、女性の進学率は1950年代と比較すると、約50ポイント増加

## 産業別就業者数の推移

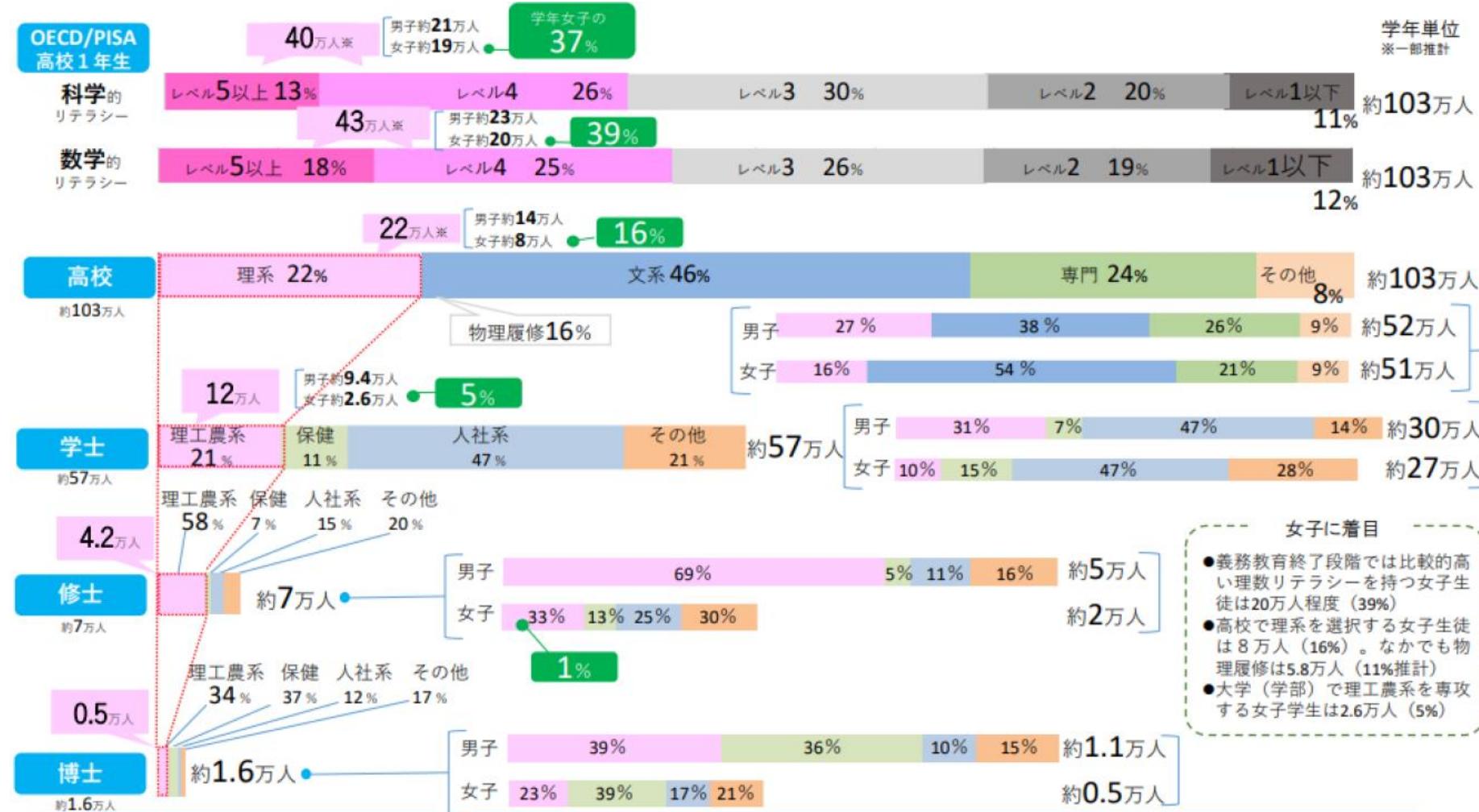


## 大学・短期大学等進学率の推移



# 変化する社会構造（大学等における専攻分野の推移）

□ 15歳児を対象としているOECD生徒の学習到達度調査(PISA)では、比較的高い理数リテラシーを持つ生徒が多いにも関わらず、高校・大学で理数系を選択している生徒の割合が低い状況



(出典) OECD/PISA高校1年生内訳：OECD生徒の学習到達度調査（PISA）2018年調査に基づき作成。  
OECD/PISA高校1年生及び高校 総人數：令和2年度 文部科学省学校基本調査より推計。

高校内訳：国立教育政策研究所「中学校・高等学校における理系選択に関する研究最終報告書」（2013年3月）に基づき作成。  
学士・修士・博士内訳：令和2年度 文部科学省学校基本調査に基づき作成。

# 変化する社会構造 「普通教育を主とする学科」の弾力化

- 普通科には高校生の約7割が在籍する一方で、生徒の能力・適性や興味・関心等を踏まえた学びの実現に課題があるとの指摘もなされており、「普通」の名称から一斉的・画一的な学びの印象を持たれやすいところ、普通科においても、生徒や地域の実情に応じた特色・魅力ある教育を実現する。
- 普通科において特色・魅力ある教育を行うにあたって、従来の文系・理系の類型分けを普遍的なものとして位置付けるのではなく、総合的な探究の時間を軸として、生徒が社会の持続的発展に寄与するために必要な資質・能力を育成するための多様な分野の学びに接することができるようとする。



## 学際領域学科

現代的な諸課題のうち、SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴う諸課題に対応するために、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科

## 地域社会学科

現代的な諸課題のうち、高等学校が立地する地元自治体を中心とする地域社会が抱える諸課題に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、現在及び将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科

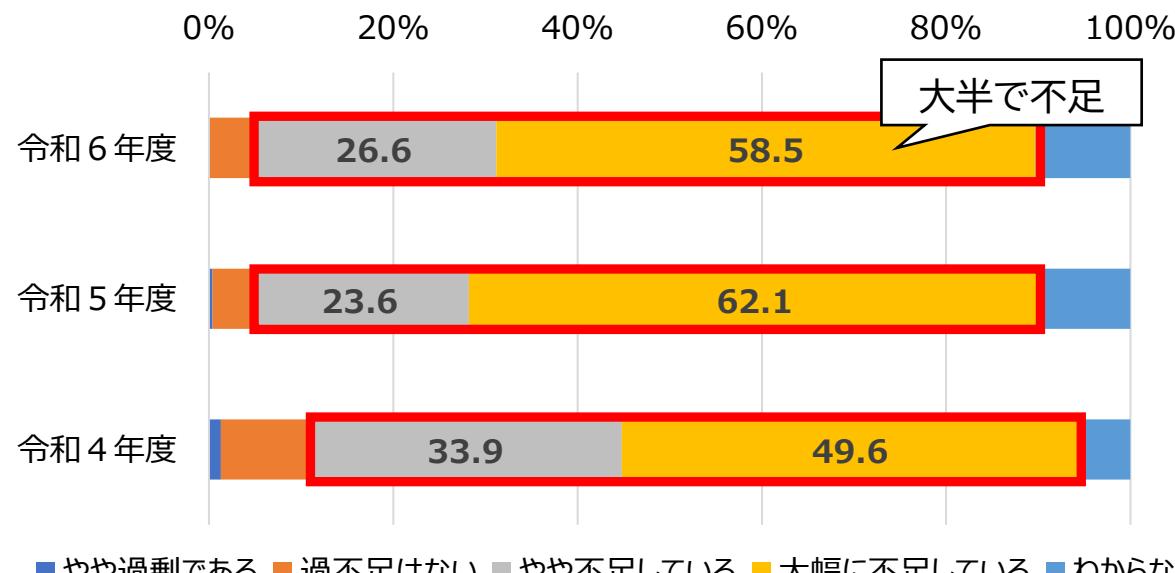
## その他普通科

その他普通教育として求められる教育内容であって当該高等学校のスクール・ミッションに基づく特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科

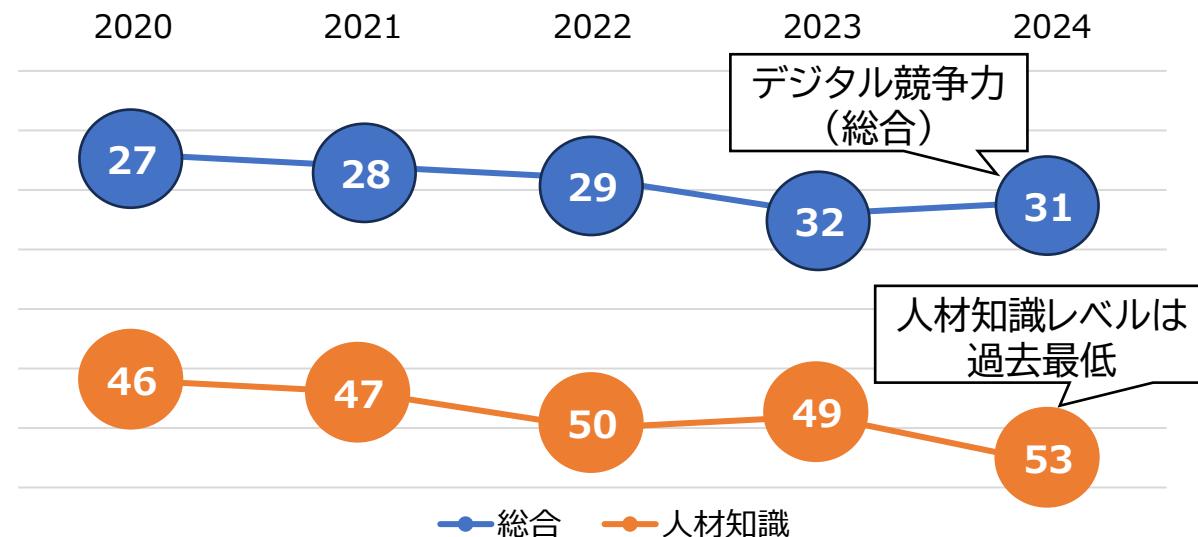
# 変化する社会構造（デジタル人材等の不足）

- 企業でDXを推進する人材の確保状況について、「大幅に不足している」「やや不足している」と回答した企業の割合の合計は85.1%にのぼり、大半の企業でデジタル人材が不足
- IMD(国際経営開発研究所)が実施する「世界デジタル競争力ランキング」において、日本は67か国中31位  
人材知識レベルに関しては過去最低の53位、さらに、「デジタル/技術スキル」の項目では67か国中67位(最下位)  
であり、人材知識のスコア、デジタルスキルのスコアが低い。

企業においてDXを推進する人材の確保状況



日本の世界デジタル競争力ランキング 順位の推移



※デジタル競争力：知識（人材（デジタル・技術スキル含む）、テクノロジー、将来に向けた環境整備の3領域から構成され、計54の指標に基づき算出  
※人材知識：PISAの数学的リテラシーの評価、シニアマネージャーの国際経験、外国人高度人材に対する魅力、デジタル・技術スキルの利用可能性、留学生の流動性（受入数と派遣数）等から算出されたデータを総合的に評価

# 変化する社会構造（デジタル人材等の不足）

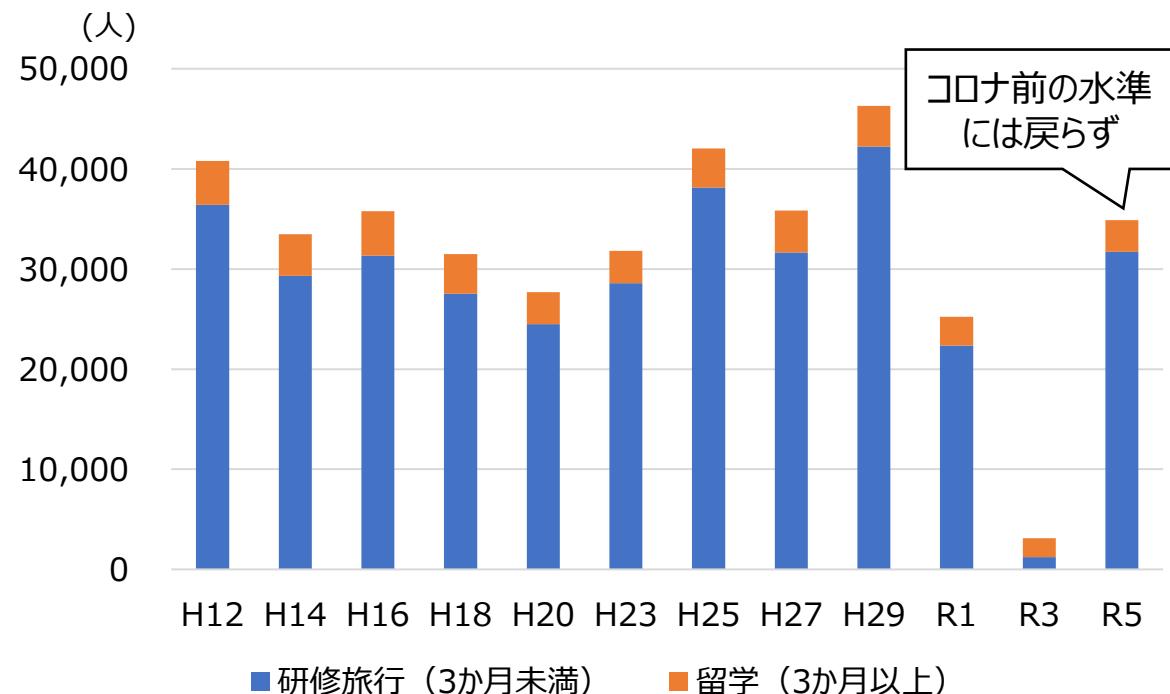
- 専門的技術的職業(研究者、技術者など)のうち、AIやロボット等の活用を担う人材が2040年には合計で約300万人不足する見込み。

	管理的 職業	専門的技術的職業 うちAI・ロボット等 の活用を担う人材	事務	販売	サービス	生産工程	輸送・機械 運転	運搬・清掃・ 包装等
<b>全産業</b>								
<b>2040年の労働需要</b> (2040年の労働供給 ※現在のトレンドを延長した場合)	124万人 (175万人)	1387万人 (1338万人)	498万人 (172万人)	1166万人 (1380万人)	735万人 (786万人)	714万人 (724万人)	865万人 (583万人)	193万人 (169万人)
<b>供給とのミスマッチ</b>	51万人	-49万人	-326万人	214万人	51万人	10万人	-281万人	-24万人
*2021年現在の就業者	143万人	1281万人	196万人	1420万人	834万人	880万人	885万人	244万人
<b>の主な産業需要の内訳2040年</b>								
製造業	24	206	130	196	52	0.7	642	10
情報通信業	3.9	131	46	43	14	0.3	3.9	0.2
卸売業、小売業	25	58	28	186	489	5.8	102	4.3
建設業	19	42	13	84	23	0.6	38	14
宿泊業	1.8	6.9	5.6	4.9	3.9	86	1.0	0.3
飲食業	2.6	2.8	1.0	7.4	8.7	172	1.9	0.5
運輸業、郵便業	5.8	21	18	68	5.8	2.9	6.4	128
医療・福祉	5.5	450	94	107	1.6	255	6.5	10
								14

# 変化する社会構造（グローバル化の加速）

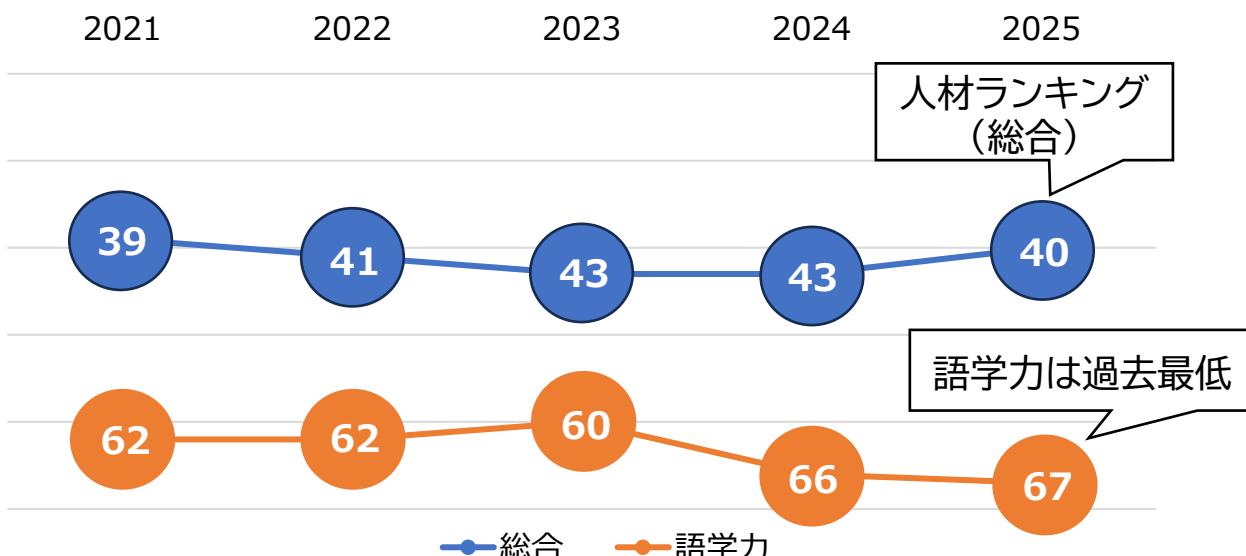
- 令和5年度に海外での留学や研修を経験した全国の高校生の数は約3.5万人  
コロナ禍を経て回復傾向にあるものの、依然コロナ禍前の水準
- IMD(国際経営開発研究所)が実施する「世界人材ランキング」において、日本は69か国中40位  
語学力に関しては過去最低の67位

高校生（全国）の留学生数



文部科学省「令和5年度高等学校等における国際交流等の状況について」から作成

日本の世界人材ランキング 順位の推移



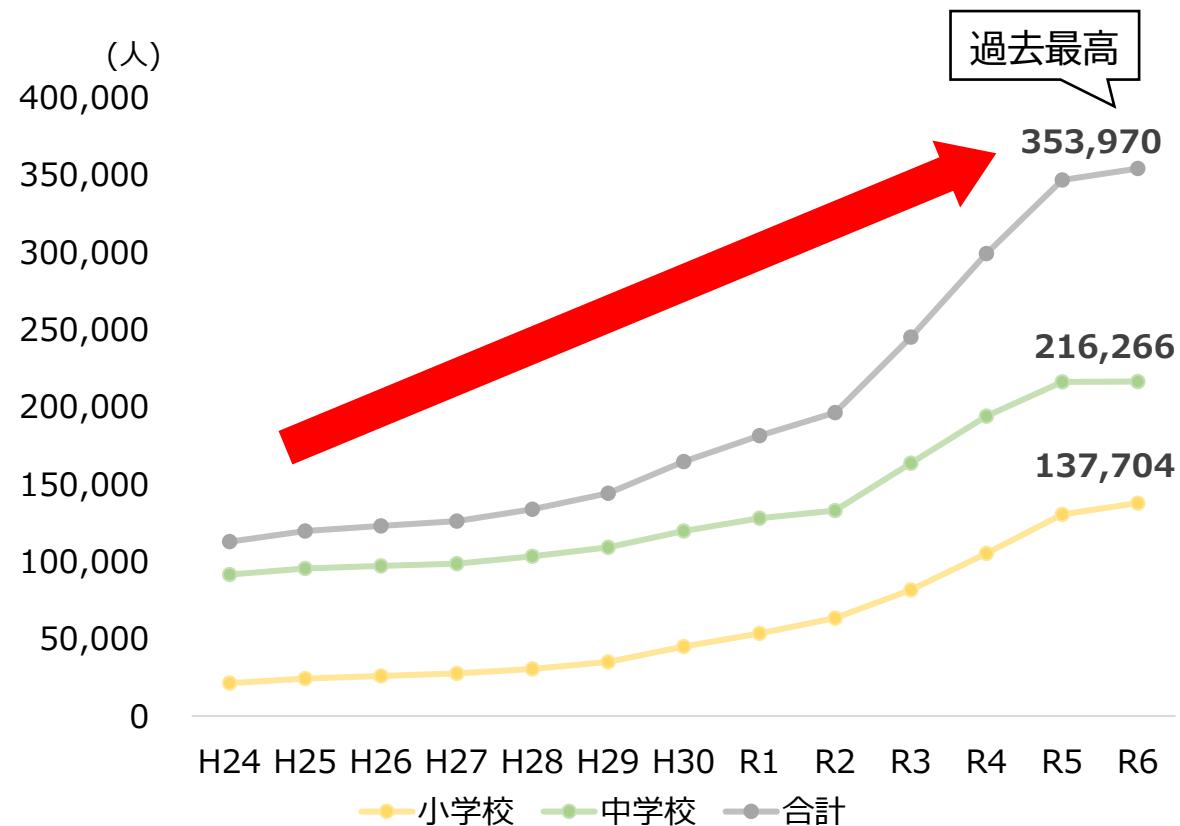
※世界人材ランキング：投資と育成、魅力、準備度の3領域から構成され、計31の指標に基づき算出  
※語学力は「準備度」領域に含まれ、企業幹部へのアンケート結果等から算出

IMD「世界人材ランキング」から作成

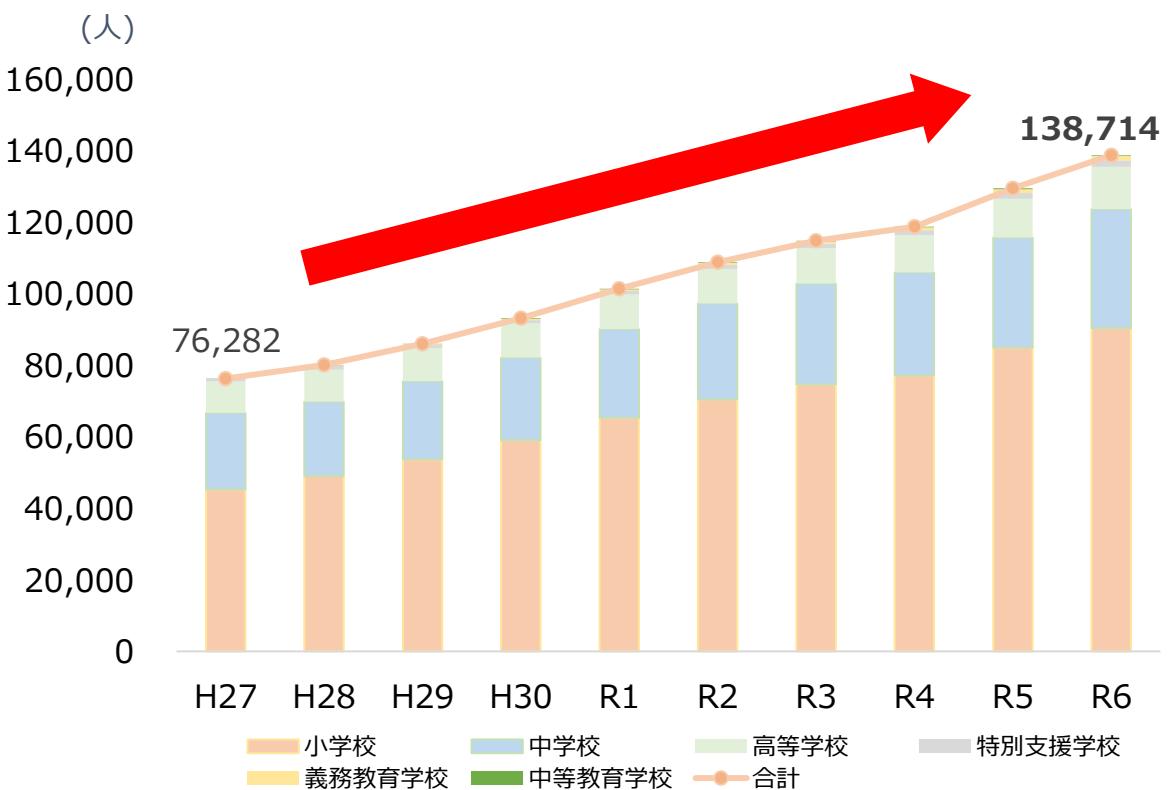
# 生徒の多様化

- 全国の小・中学校における令和6年度不登校児童生徒数は353,970人となり、過去最高
- 公立学校に在籍する外国人児童生徒数は、10年間で約6.2万人増加

不登校児童生徒数（全国）の推移



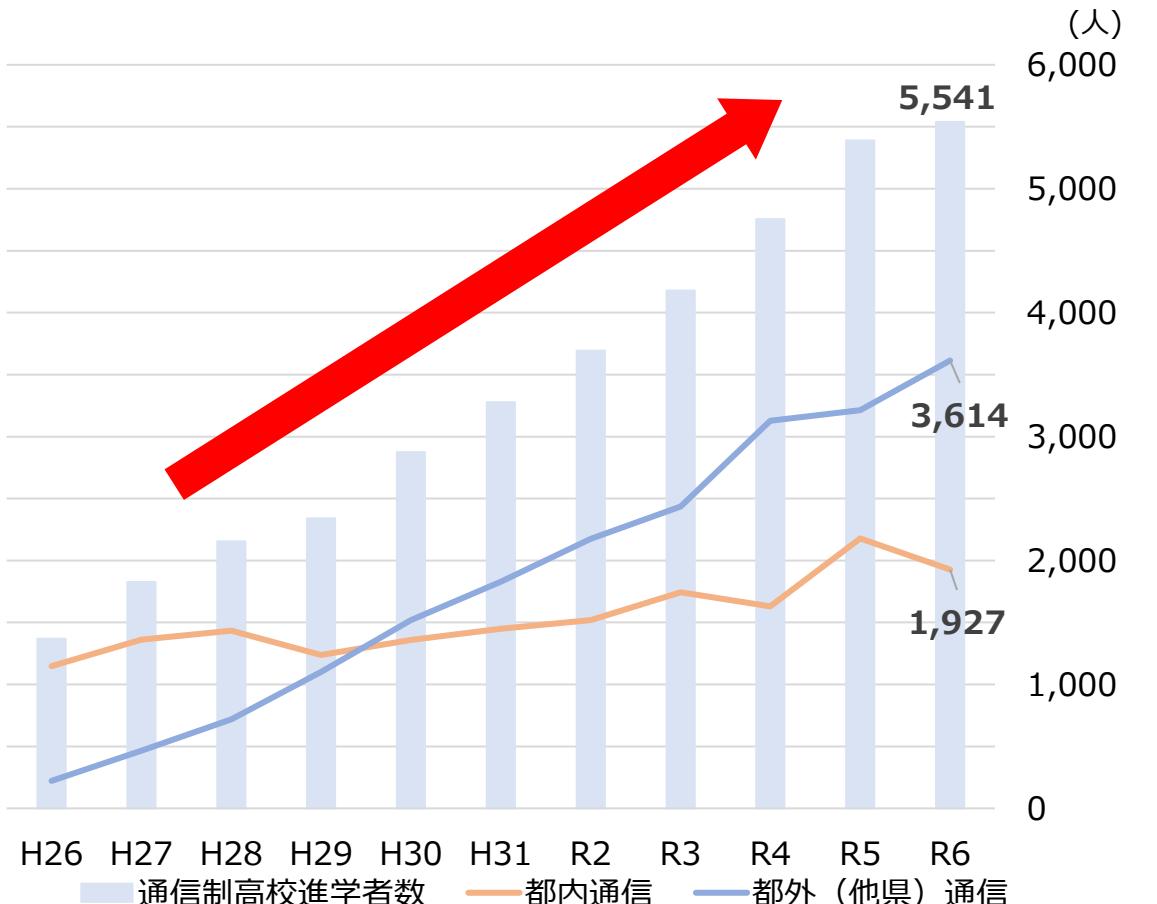
公立学校に在籍する外国人児童生徒数（全国）の推移



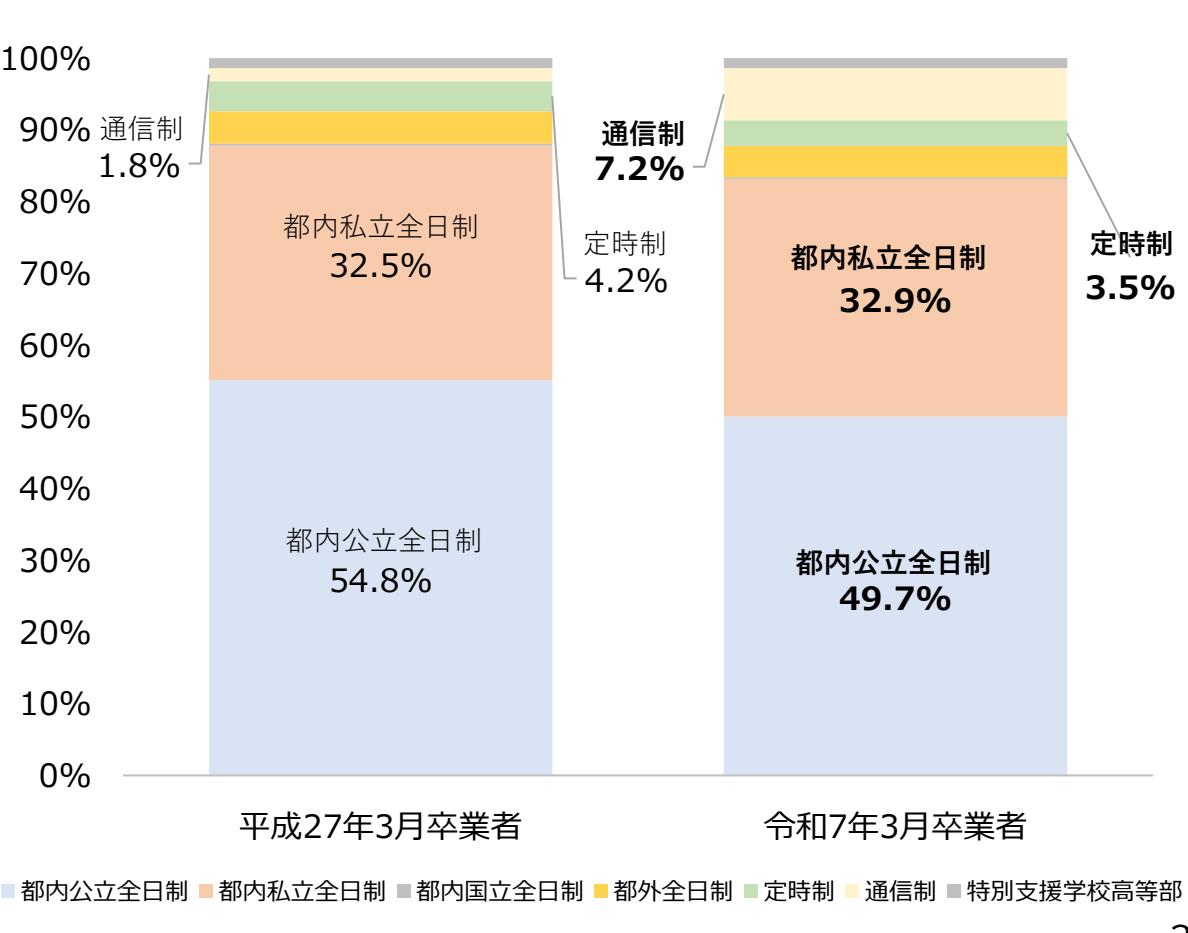
# 都内公立中学生の進路多様化

- 広域通信制を含む通信制課程に進学する生徒が近年急増

都内公立中学校等卒業者のうち通信制高校進学者 推移



都内公立中学校等卒業者の進学状況



## 8

# 都立高校の現状

# 東京都教育施策大綱

□ 東京の教育施策の基本的な方針を示す、新たな「東京都教育施策大綱」を令和7年3月策定

## 1 未来の東京と子供の姿

### 1) 2050年代の東京の姿

- 「新たな教育のスタイル」で自由で多様な学びが展開
- 世界を舞台に新たな価値を協創する人材を輩出
- 東京の教育の仕組みを日本の教育のスタンダードに

### 2) 未来の東京に生きる子供の姿

- 自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる
- 他者への共感や思いやりを持つとともに、自己を確立し、多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与する

## 2 東京の目指す教育

### 1) 東京の目指す教育

誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って自ら伸び、育つ教育

### 2) 東京の目指す教育の実現に向けた3つの学び

- 子供の意欲を引き出す「学び」
- 社会全体の力を生かした「学び」
- ICTの活用による「学び」



### 3) 東京型教育モデルのバージョンアップ

- 次世代の学びの基盤を作るプロジェクト [L P X]  
Learning Platform Transformationで教育を変えていく
- 今の学びのあり方を見直し「新たな教育のスタイル」に変革

## 3 特に重要で優先的に取り組む事項

### 1) 「新たな教育のスタイル」を都立高校から展開

東京発のデジタルとリアルを融合した学習者中心の新しい学び

例 L P Xの展開、新しい科目（アントレプレナーシップ等）、先端的な都立版の学習支援システムの導入 等

### 2) デジタルを活用した学び方の転換

子供がICTも活用しながら、学びのプロセスを自ら決定する授業

例 生成AIの活用促進、デジタル教科書の導入 等

### 3) 世界を舞台に活躍できる人材の育成

言葉の壁を乗り越え、国内外の課題を解決していく力を伸ばす

例 グローバル教員の育成、海外派遣、国際交流の充実 等

### 4) 一人一人の子供の状況に応じたきめ細かな教育の充実

自分らしく成長できる多様な学びの場と居場所を学校内外に整備

例 スクールカウンセラー等の専門人材充実、不登校の子供を含めた居場所づくり 等

### 5) インクルーシブな教育の推進

共生社会の実現に向け、多様な背景を持つ子供たちが共に学び、共に伸びる

例 進学・就労支援、専門人材の活用促進 等

### 6) 子供たちの学びを支える教職員・学校の力の強化

学校における働き方改革の抜本的な推進などにより、教育の質を向上

例 業務のアウトソーシング、在校時間の見える化、TEPROによる学校支援 等

# 都教育委員会の取組（次世代の学びの基盤プロジェクト）

## 東京都が目指す「次世代の学びの基盤プロジェクト」(概要)

～「新たな教育のスタイル」の確立に向けて～

(現状・背景等)

- 予測困難な時代が到来し、社会経済の不確実性が増大
- 高等学校では、学校や教科書で学ぶ体系的な学問領域に縛られず、生徒が自由に学びを深めることが必要
- デジタル端末で、興味関心に応じて多くの情報を得られる時代となり、生徒の学ぶ選択肢・領域の拡大への対応が必要

これまで

特色ある学校を設置して  
興味関心に応えてきた

学校レベルから  
個人レベルへ

これから

全ての学校で一人一人の  
生徒の興味関心に対応

学びの在り方そのものを見直し、  
一人一人の興味関心や適性に合わせた教育への変革が必要

### 「次世代の学びの基盤プロジェクト」

三位一体の改革により、東京における学びの基盤を構築

DX

デジタルとリアルの最適な組み合わせ

制度

学習内容や方法、単位の認定等の柔軟な運用

教員・組織

教員の役割や組織のあり方の改善

### 自立した学習者の育成

知識や思考力、創造性、社会性などとともに、生涯に渡り、  
持続的に学び続ける力、自分で選択し決定する力を身に付ける

### 都立高校を「新しい学びの場」へ進化

#### 「新しい学びの場」における教育

##### ① デジタルとリアルを組み合わせた学び

(個別最適・協働的な学びを通じて主体的に学ぶ姿勢を育成)

###### デジタルの教育をリアルの教育に繋げる(例)

いつでも・どこでも、興味関心に応じた学習に取り組める  
遠隔授業で、生徒の特性に応じた学習機会を充実

###### デジタルを活用し、リアルの教育を一層充実(例)

探究学習では、未知の状況にも対応できる  
「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」が身に付く

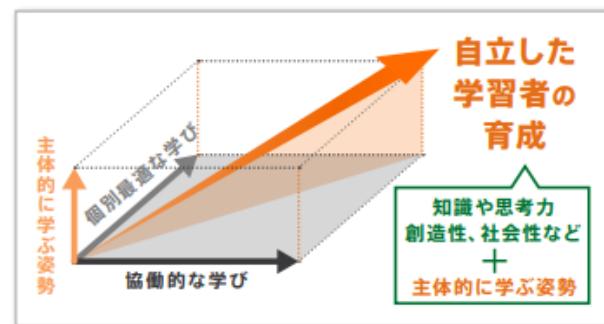
###### デジタルとリアルを最適に組み合わせ、広がる新たな学び

##### ② 教員が生徒の学びを伴走

##### ③ LMSにより多様な学び方を実現し、教育効果を高める

### 「新しい学びの場」で育成する人材

上記①～③により  
効果を最大化



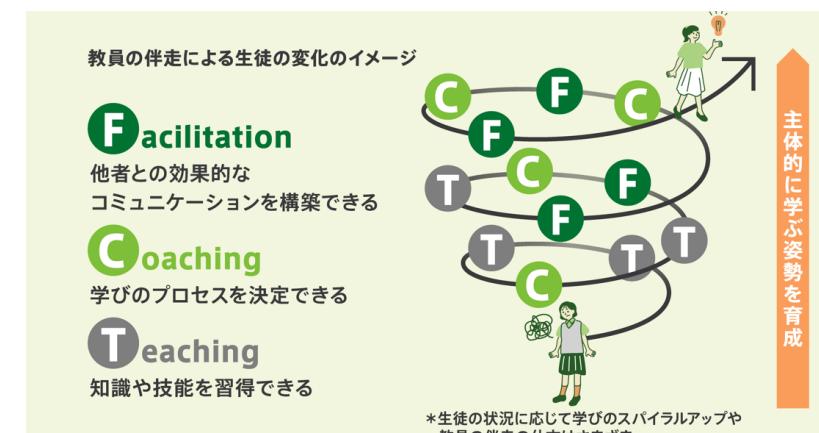
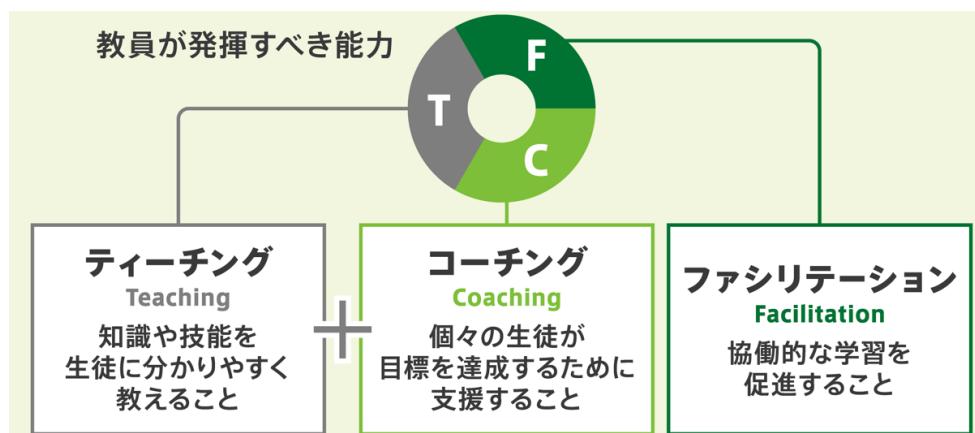
# 都教育委員会の取組（次世代の学びの基盤プロジェクト）

- 令和7年度、各種の取組を試行し、モデル校の状況等を把握し、今年度中に「中間の取りまとめ」を行う。

モデル事業	事業内容
1 新分野のデジタル教材開発	生成AIを正しく理解し、使いこなすプログラム、アントレプレナーシップを育むことができるプログラムなど
2 デジタル教科書の導入・活用	デジタル教科書を導入し、授業での活用方法などをモデル校（6校）で研究
3 学びの成果の可視化 LMS	個々の生徒の学習状況を可視化し、教員・生徒等を結ぶ双方向・対話型システムを試行導入
4 納得性の高い評価（CBT）	モデル校でCBT（Computer Based Testing）方式を運用
5 新たな教育のスタイルの研究指定校	校内別室指導推進事業実施校のうち6校において、オンライン授業やオンデマンド教材等を活用した学習による単位認定を検討

今年度中に  
「中間の取りまとめ」

- 教員が生徒の学びを伴走し、一人一人の状況に応じて、意図的・計画的に生徒の主体的に学ぶ姿勢を育成

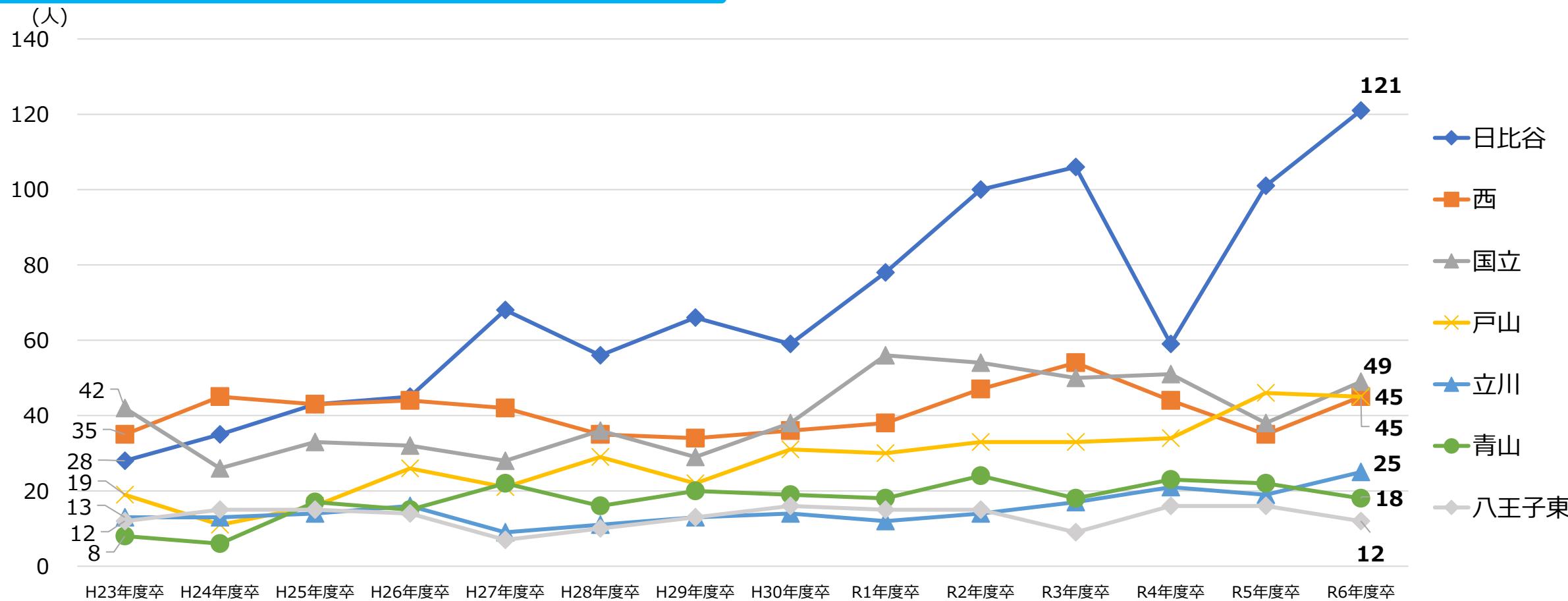


教員研修等  
について検討中

# 都教育委員会の取組（進学指導重点校等）

- 個々の生徒の進学希望を実現するために、進学指導重点校等における進学指導体制の整備に向けた支援を実施。  
難関国立大学や国公立大学医学部医学科への進学希望を実現

## 進学指導重点校における難関国立大学等の合格状況（現役）



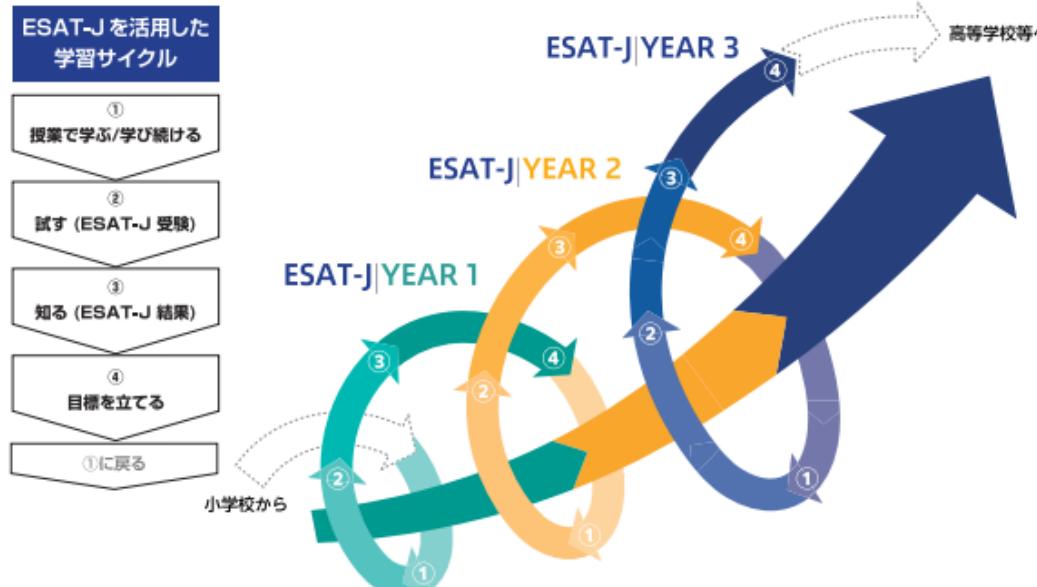
※難関国立大学等：東大・京大・一橋大・東京科学大・国公立大医学部医学科 40

# 都教育委員会の取組（使える英語力の育成）

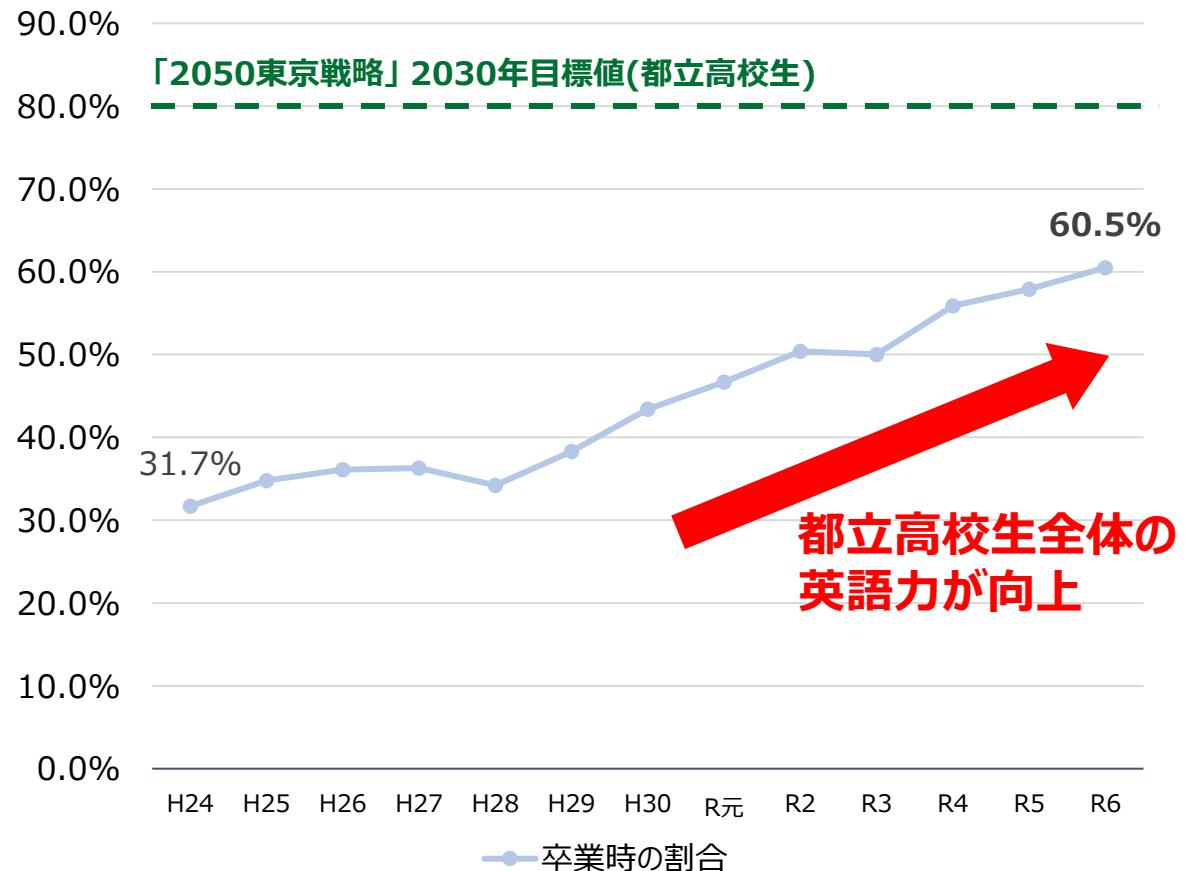
- 個々の生徒へのきめ細かい指導を展開するとともに、外国人指導者の効果的な活用や体験的に英語を使う機会の創出などにより実践的な英語力を育成

## 中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）

- 中学校の授業で学んだ英語で「どのくらい話せるようになったか」を測るためのスピーキングテスト
- 中学校1年生対象の「ESAT-J YEAR 1」、2年生対象の「ESAT-J YEAR 2」、3年生対象の「ESAT-J YEAR 3」を実施  
ESAT-Jを通して現在の英語力を知り、結果を基に今後の目標を設定することで英語の「話すこと」の力を更に伸長



## CEFR A2相当以上を取得している都立高校生の割合



# 都教育委員会の取組（グローバル人材の育成）

- 多様な価値観をもつ人々と協力・協働しながら課題を解決する力を身に付けるとともに、自らすすんで積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や豊かな国際感覚を醸成

## 国際交流の推進

### ○ 海外高校生の受入(約1週間)

生きた国際交流の機会を創出することで、都立高校生の国際感覚を醸成

- ・海外の生徒を都立高校に受け入れ、学校生活体験
- ・「授業」や「特別活動・部活動」を通じた交流

### ○ 東京都国際交流コンシェルジュ

国際交流を幅広く実施できるよう、大使館等との交流、海外の学校との交流に向けた相談対応、マッチング支援等、ワンストップでサポート

### ○ 海外との学校間交流(姉妹校等)の拡大

海外の高校等との交流を推進するため学校の取組を支援  
「現地又は国内での交流」「姉妹校提携」「オンライン交流」等

### ○ 海外教育機関との連携

海外の教育委員会等と教育に関する覚書を締結し、都立高校等における国際交流をバックアップ

## 海外派遣の推進

### ○ 次世代リーダー育成道場(約1年)

国内事前研修で様々なことを学び、その後、留学にチャレンジする都独自のプログラム

### ○ 都立高校生の海外派遣(約1週間)

都独自プログラムとして、欧米、アジア、中東等へ都立高校生等を派遣し、現地高校、日本大使館、企業、文化施設等での交流活動を実施

### ○ 教員の海外派遣(約1週間、約1か月、約1年半)

英語教授法やグローバル人材育成に向けた指導力等を育成するため、教員を海外の大学・大学院等の教育機関に派遣

## 海外大学等への進学支援

海外大学進学に向けた基本情報の提供や、保護者向け説明会などを実施するとともに、留学支援アドバイザー等により生徒一人一人に応じた支援を実施

# 都教育委員会の取組（デジタル人材の育成）

- デジタル技術の急速な進化や「東京都AI戦略」等を踏まえ、授業内・外において、デジタル人材の育成を推進

## 生成AIの利用環境の整備

- 20の研究校で作成してきた指導資料を全都立学校に共有
- 全都立学校に、利便性や安全性の高い生成AIの利活用環境を整備
- 今年度新たに教員が12教科・130の活用事例を作成



(あらかじめポスター画像を都立AIに読み込ませた上で)

A I：色づかいはいいですね。

文字の情報量で工夫したことはありますか？

生徒：見る人に端的に伝わるよう説明を減らした。

A I：なるほど。

他のポスターを見て参考にできそうなところは何ですか？

## 教科「情報」における指導体制の充実

- 情報の発展的な内容を扱う教科「情報Ⅱ」の設置校率は、全国トップの約43%
- 「情報Ⅱ」の更なる設置拡大に向け、指導内容に関する教員研修を実施

## アプリ開発イベントの実施

- 多くの子どもたちがITの基本的なスキルであるプログラミングに興味関心を持てるようアプリ開発イベントを実施
  - ・ワークショップ(R7.6～R8.3開催)
  - ・ハッカソン(R7.8の4日間開催)
  - ・モバイルアプリコンテスト(R8.1表彰式開催予定)

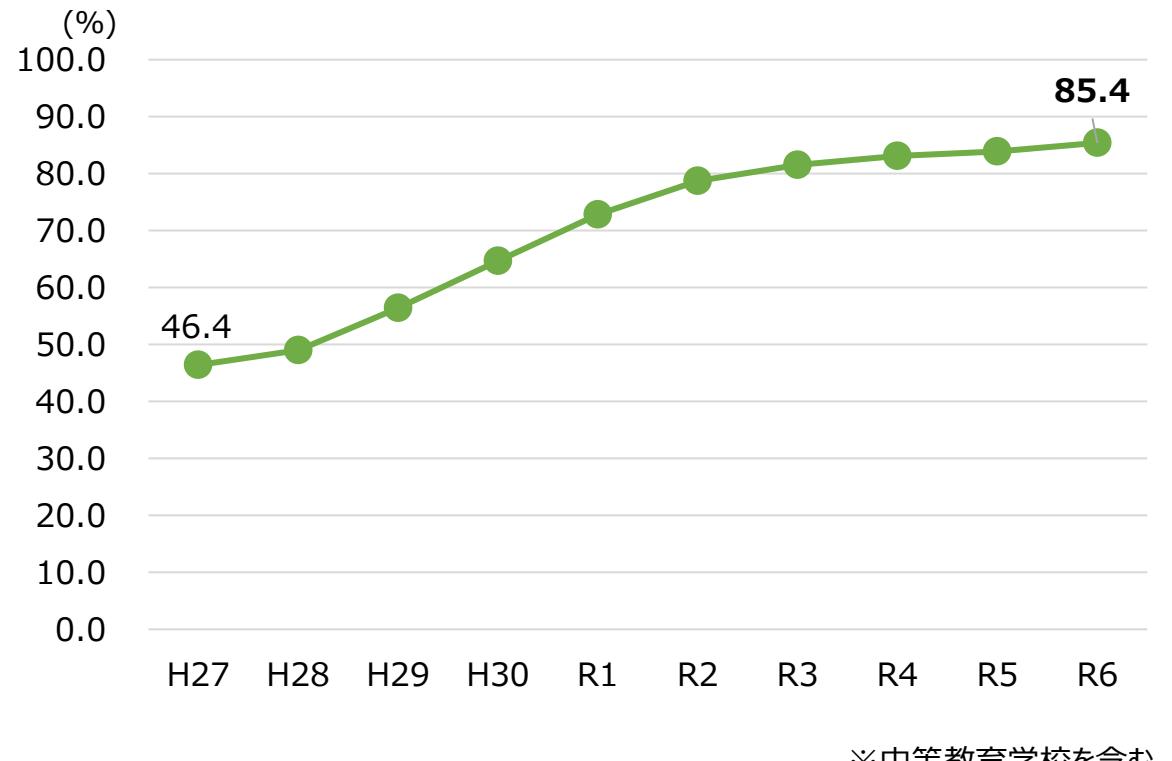


# 都教育委員会の取組（施設整備）

- 生徒の安全・安心を確保するとともに、地域の災害拠点としての役割を担うための良好な学習環境を整備

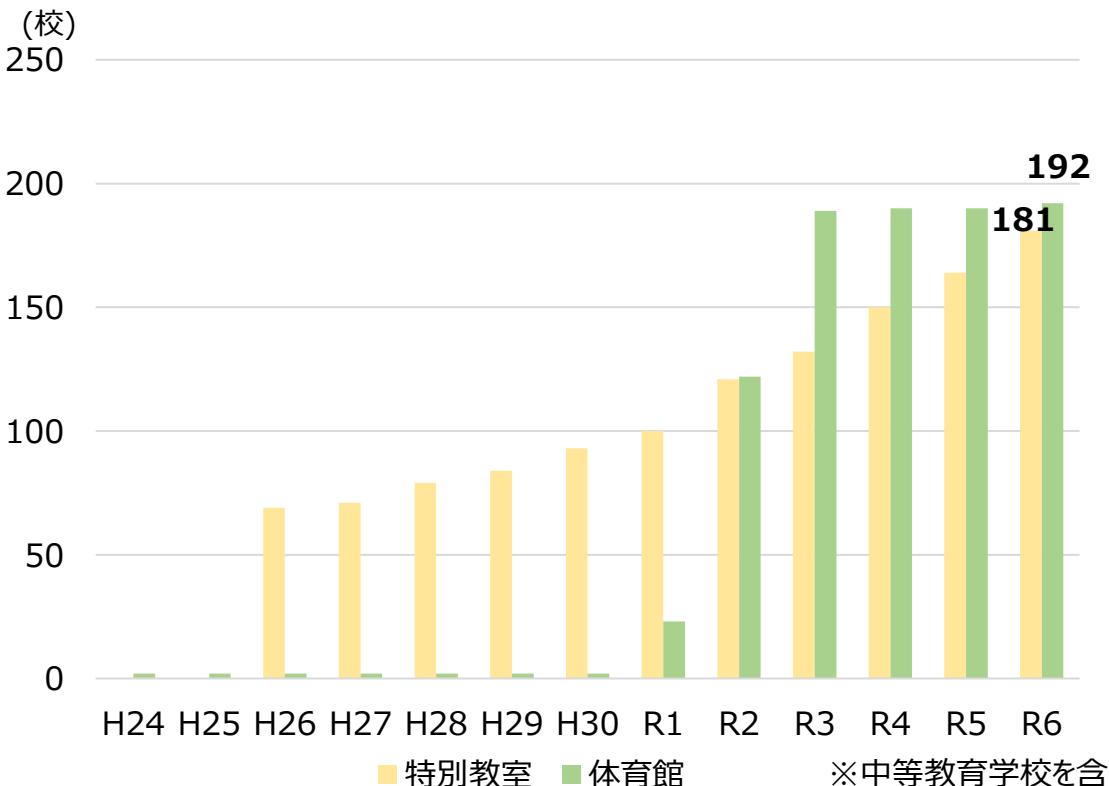
## トイレの洋式化の推進

- トイレの洋式化率 85.4%(R6年度末時点)



## 空調設備の充実

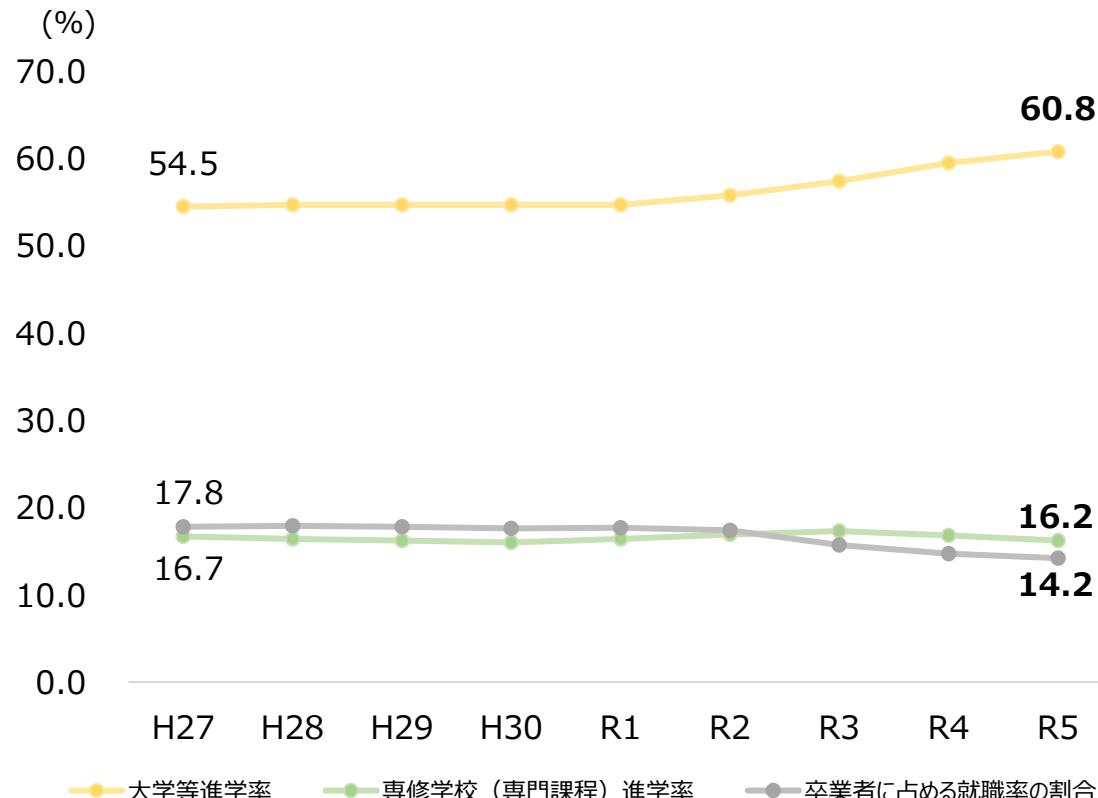
- 特別教室の空調設置 192校中 181校整備済み(R6年度末時点)
- 体育館の空調設置 192校中 全校で整備済み(R6年度末時点)



# 高校卒業生の進路状況

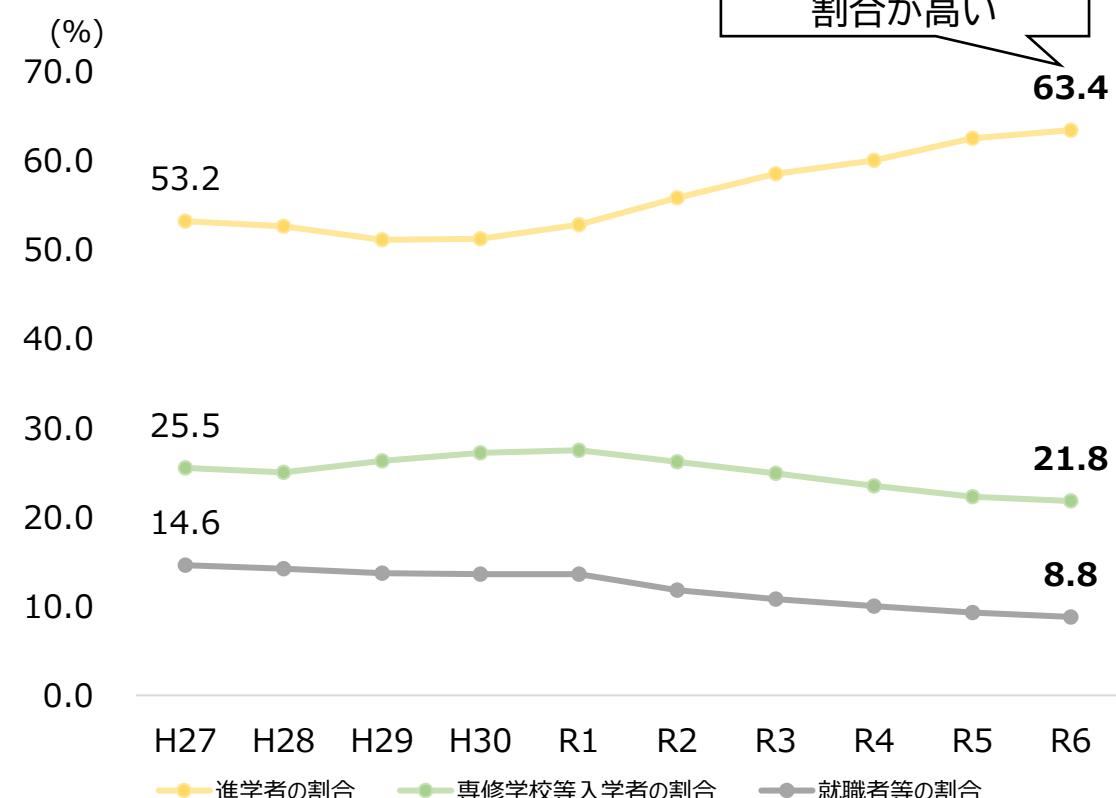
- 高校卒業生の進路状況は、全国及び都内ともに大学等への進学率が増加傾向とりわけ、都立高校卒業生は全国と比較しても大学等への進学率が高く、就職率が低い。

高校卒業生（全国）の進路状況の推移



文部科学省「文部科学統計要覧（令和6年版）」から作成

都立高校卒業生の進路状況の推移

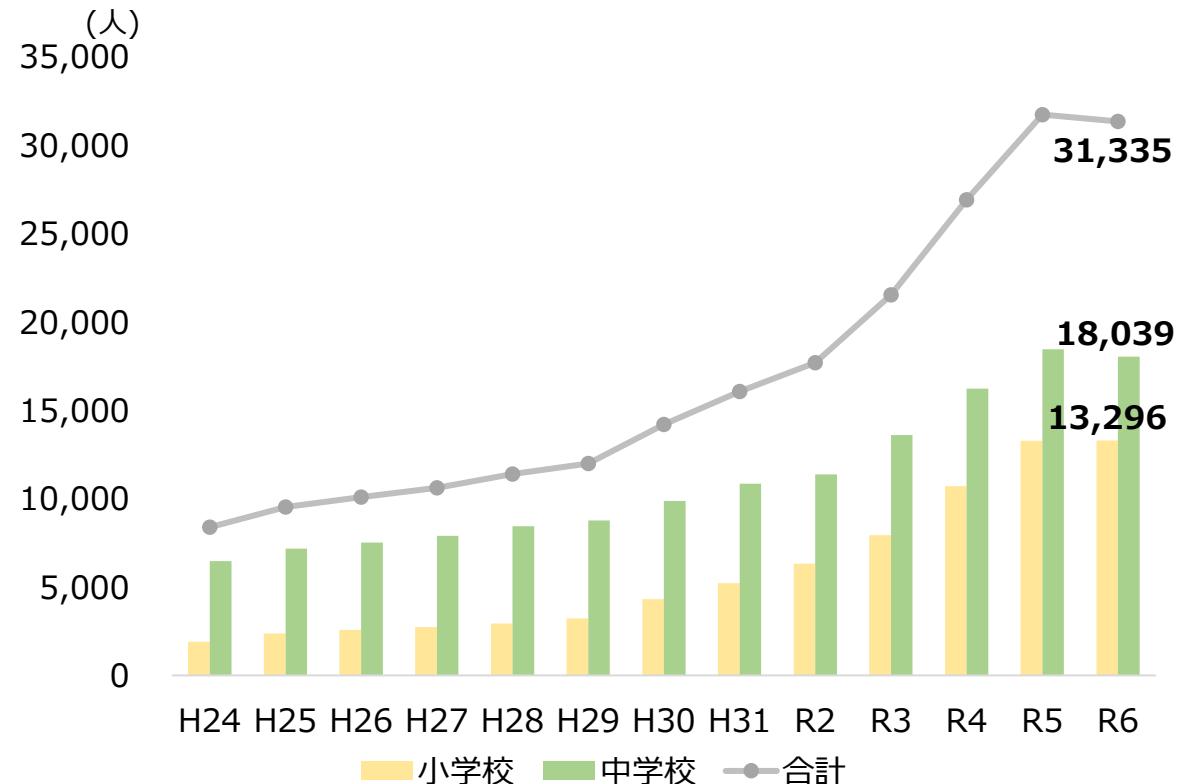


「令和7年度公立学校統計調査報告書」から作成

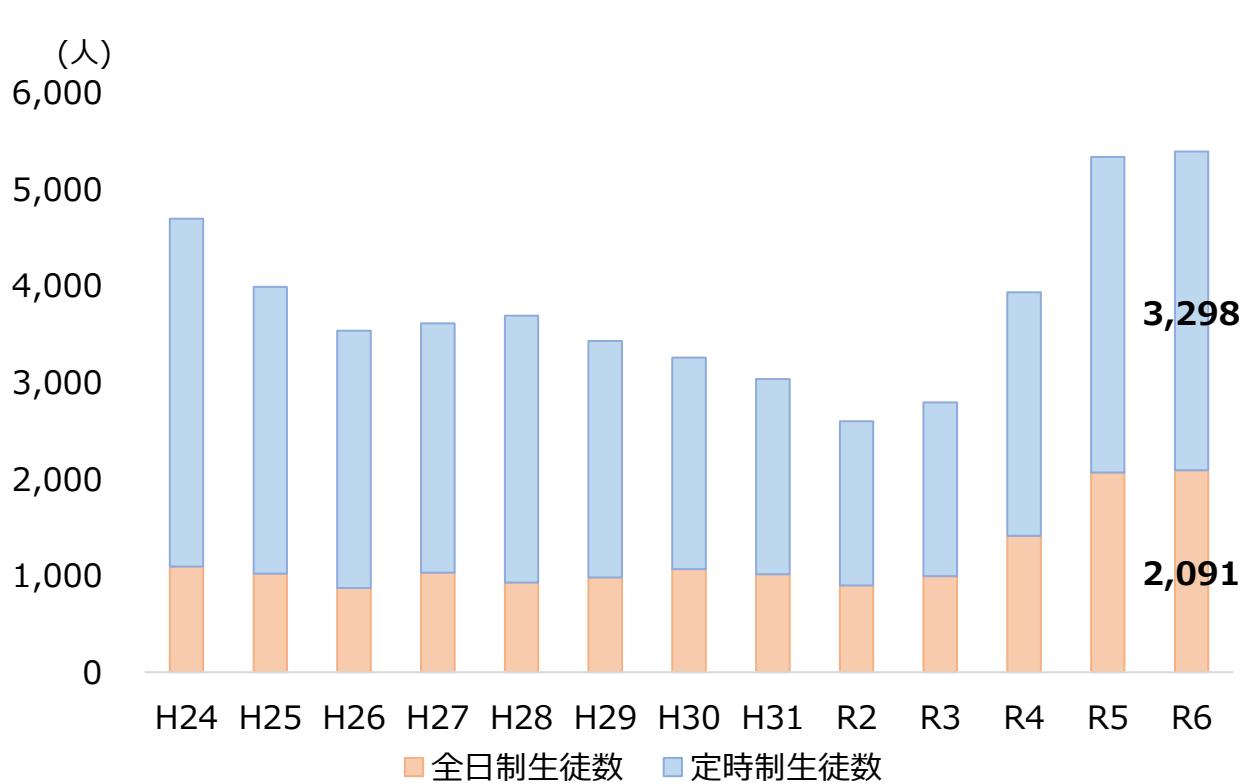
# 都内不登校児童・生徒（小学校・中学校・都立高校）

- 都内公立小学校・中学校における不登校児童・生徒数の合計は令和5年度まで11年連続で増加していたが、令和6年度において減少
- 都立高校における不登校生徒数は減少傾向であったが、令和3年度から増加

都内公立小学校・中学校における不登校児童・生徒数の推移



都立高校における不登校生徒数の推移



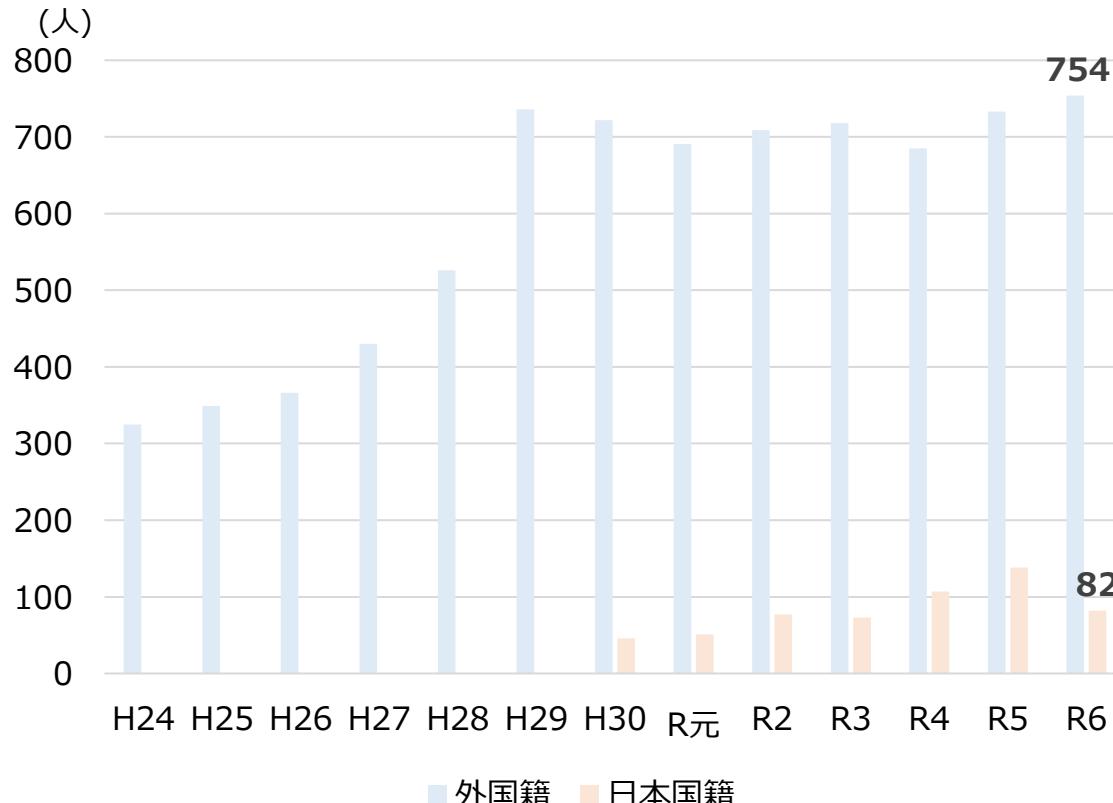
「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」から作成

「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」から作成

# 多様な背景を持つ生徒

- グローバル化の進展等に伴い、日本語指導が必要な生徒は増加傾向
- 発達障害のある生徒など特別な支援が必要な生徒は、都立高校においても一定数在籍

## 日本語指導が必要な生徒数の推移



文部科学省及び東京都教育委員会「日本語指導が必要な児童・生徒等受入状況調査」より  
※日本国籍生徒数は平成30年度から調査開始

## 特別な支援が必要な生徒

### 都立高校における発達障害の可能性のある生徒の在籍状況

	生徒数(a)	発達障害の可能性のある生徒の在籍数(b)	在籍率(c=b/a)
全日制	119,274人	2,997人	2.5%
定時制	9,761人	1,403人	14.4%
計	129,035人	4,400人	3.4%

「都立高校における発達障害教育の手引き～誰一人取り残さない学校づくり～」  
(令和6年2月策定) から作成

▶ 都立高校において発達障害の可能性のある生徒の在籍割合は**3.4%**

# 都教育委員会の取組（多様な背景を抱える生徒への支援）

- 令和6年10月に「都立高校におけるチャレンジサポートプラン」を策定し、多様な背景を抱える生徒の学びや成長を支える学習・教育環境を充実

## 都立学校「自立支援チーム」派遣事業の実施

- 平成28年度から都立学校「自立支援チーム」派遣事業を実施。困難を抱える生徒を支援し、将来社会的に自立できるようにするため、就労や福祉の専門的知識や技術を持つユースソーシャルワーカー等で構成される「自立支援チーム」を都立学校に派遣
- 不登校や中途退学などが顕著な都立学校に対して同チームを継続的に派遣（その他の学校にも要請に応じ、速やかに派遣）
- 同チームは、不登校生徒への対応や中途退学の未然防止、ヤングケアラーへの支援、中途退学した生徒への就労・再就学支援等を実施

## スクールカウンセラーを活用した相談・支援体制の充実

- 全ての都立高校に週2日程度※、スクールカウンセラーを配置  
※ 校内別室指導を行う学校等には、必要に応じて配置日数を拡大
- スクールカウンセラーは、勤務する各校で教職員との連携や保護者への助言、情報収集等を行いつつ、各生徒へのきめ細かな相談対応や支援を実施

## 日本語指導推進ガイドラインの活用

- 都内の外国人児童・生徒等教育の基本的な方針や外国人児童・生徒等に関する諸課題への解決策を示した教職員向け手引
- 有識者や学校関係者の意見を踏まえ、各学校のニーズに応える情報を提供し、都内公立学校に日本語指導を根付かせていく。



## 在京外国人生徒等の受入

- 中学校における日本語指導が必要な在京外国人生徒等の人数の推移や、居住する地域のバランス、在京外国人生徒対象枠の募集校における入学者選抜の応募状況等を踏まえ、適切な募集規模を検討し、在京外国人生徒等を受入れ

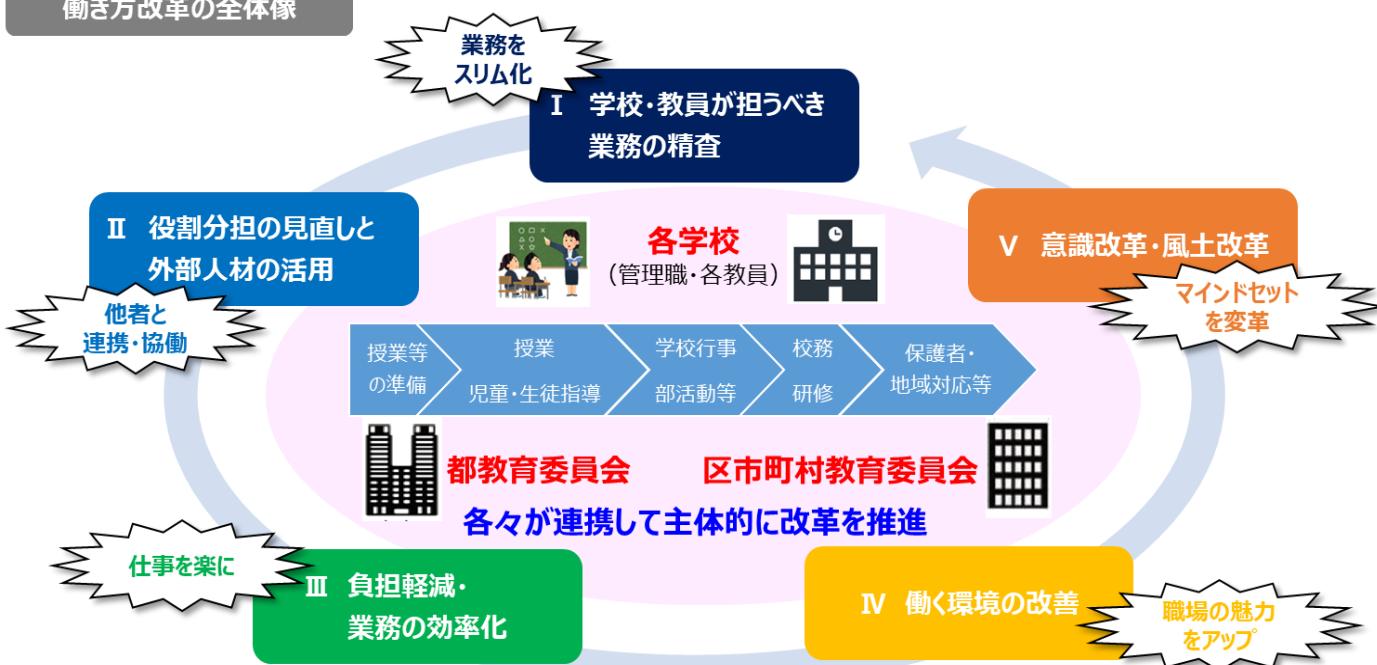
# 都教育委員会の取組（学校における働き方改革の推進）

- 教員の長時間労働を改善し、教員一人一人の心身の健康保持の実現と、誇りとやりがいをもって職務に従事できる環境を整備することにより、学校教育の質を維持向上

## 学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム

- 集中的に取り組むべき具体的な対策をまとめた「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」を、令和6年3月に策定し、学校における働き方改革を推進
- 計画期間は、令和5年度から令和8年度まで(4年間)

働き方改革の全体像



## コンサルタントを活用した業務改革支援

- 業務改革の専門家であるコンサルタントが伴走型で支援することで、対象校の課題に合わせて改善策を検討し、学校で実践する仕組みを構築



## 職員室の環境改善

- 教員同士のコミュニケーションの円滑化や効率的な学校運営を可能とするとともに、学校現場の魅力向上を図るために、都立学校において、職員室の環境改善を推進



# 懇談会の主な論点

- < 魅力の向上 > 社会や経済の急速な変化を踏まえ、中学生やその保護者が「通いたい、通わせたい」と考える都立高校には、今後ハード面・ソフト面でどのような魅力を備えていくことが重要か。
- < 人材の育成 > グローバル化・デジタル化が急速に進展するなど、将来の予測が困難な社会において、都立高校では、今後どのような人材を育成していくべきか。
- < 多様な背景への対応 > 不登校経験や学び直しなど様々な困難・ニーズを抱える生徒に対し、都立高校は、どのような学びの環境を提供していくべきか。
- < 新たな学びの確立 > 多様な興味・関心や進路希望等を有する生徒に対し、都立高校は、新たな学びをどのように展開していくべきか。
- < 魅力等の発信 > 今後の都立高校は、どのように魅力を描き、中学生や保護者などに伝えていくべきか。